

I 附属図書館の目標・計画

【資料】第2期中期目標期間中における部局の計画等

1 第2期中期目標期間（平成22年度～平成27年度）における目標及び計画

附属図書館は、本学の行う教育、研究に関わる学術情報を収集・蓄積し、効率的に提供する。同時に、学生が自発的に学習を行う場として、体系的かつ網羅的に図書館資料を収集し、情報ネットワークを整備して、より効果的な学習環境を提供する。さらに、本学の社会貢献のひとつとして、地域に開かれた生涯学習の活動を推進して行く。

（1）教育に関する目標・計画

【目標】

教養の形成、専門の学習及び自発的な学習を支援するため、体系的かつ網羅的に資料を収集し、情報ネットワークを整備して、より効果的な学習環境を提供する。（佐賀大学第2期中期計画項目13に該当）

【計画】

- 1) 学生用図書、シラバス指定図書等を計画的に収集し、提供する。
- 2) 電子図書館機能の一層の充実を図る。
- 3) 図書館月間、学生選書等の企画を通じて読書を奨励する。

（2）研究に関する目標・計画

【目標】

本学が国際的に高い研究水準を目指すための研究支援を充実強化する。

【計画】

学内で利用できる文献データベース、電子ジャーナルの適正維持を図る。

（3）社会貢献等に関する目標・計画

【目標】

附属図書館を地域に開かれた生涯学習の場として整備し、学術情報を提供する。

【計画】

- 1) 図書の貸出、講演会の実施等により、市民への情報サービスを一層充実させる。
- 2) 機関リポジトリシステムを使って、本学の教育研究活動等の成果を収集・蓄積し、広く学外に公開する。

II 附属図書館の概要

【資料】II-1 蔵書数、II-2 図書受入冊数、II-3 雑誌受入種類数

附属図書館は、文化教育学部、経済学部、理工学部、農学部がある本庄キャンパスに本館、医学部がある鍋島キャンパスに医学分館を配置する。

(1) 施設・設備

本館は、鉄筋4階建てで総面積5,332㎡である。ラーニング・コモンズ、開架閲覧室、閲覧個室、グループ学習室、マルチメディアコーナー等の利用者用スペースと、会議室、事務室等の管理スペース及び書庫等を有する。1階から3階が利用者用スペースとなっている。座席604席の他にグループ学習室、研究者閲覧個室、マルチメディアコーナー、ブラウジングコーナーなどを備え、利用者用として学内LANに接続されたパソコンを75台、及び情報コンセント等、ネットワークを利用した学習環境を整備し、学生及び研究者の学習、研究の能率向上を図るよう配慮している。本庄キャンパスには本館建物の他に旧館書庫780㎡を有する。

医学分館は、鉄筋2階建てで総面積1,769㎡である。座席172席を備え、利用者用として学内LANに接続されたパソコン62台を配置するとともに、図書等の蔵書構成、配置等について十分に検討し、自学自習が効率よくできるよう配慮している。

両館とも設備・備品として、入退館システム、図書自動貸出返却装置、全館冷暖房設備、エレベータを備えている。

(2) 図書館資料

本庄キャンパスでは、図書（視聴覚資料を含む、以下同じ）は、教育研究組織・教育課程に即し、医学・看護学を除いたほぼ全分野にわたる資料594,823冊を所蔵している。このうち約40万冊を附属図書館本館に、約19万冊を研究室に所蔵する。

雑誌は、人文・社会・自然各分野にわたる国内外の学術雑誌、大学論集、紀要等合わせて9,505種類を所蔵する。また、附属図書館閲覧室に配架の学習用雑誌は、学術雑誌から就職に関わる受験雑誌等まで幅広く収集し、提供している。

医学分館では、図書は、医学・看護学を中心に116,022冊を所蔵している。内訳は、医学・看護学分野の専門図書77,191冊、一般教養図書38,831冊である。雑誌は、医学・看護学関連雑誌を中心に一般教養雑誌を含め約2,353種を所蔵している。図書・雑誌ともすべて開架書架に配架し、提供している。

また、全学で利用できる電子的資料として、文献等データベース13種及び、主要出版社の電子ジャーナルをはじめとして全11,884種の電子ジャーナル、18,365点の和書・洋書の電子書籍へのアクセスが可能となっている。

学内では総合情報基盤センターと共同で電子図書館システムを運用し、本学の学術情報の発信機関としての役割を担っている。

国内では全国的な学術情報ネットワークに参画し、膨大かつ多様な学術情報を提供している。

Ⅲ 領域別評価

1 教育支援

(1) 資料の計画的収集

【資料】Ⅱ-1 蔵書数、Ⅱ-2 図書受入冊数、Ⅱ-3 雑誌受入種類数、Ⅲ-1-2 図書除籍冊数

本館

①資料費の確保

教育・学習支援を使命とする附属図書館では、学生用図書、電子情報資料等（以下、学生用資料）の資料費の確保は最も重要な課題の一つである。資料費は法人化直前の平成 15 年度に大学の経常経費として認定され、法人化後は図書館への基本予算として計上されている。

②学生用資料の選定と収集

学生用資料は、本学教員と図書館職員で構成する附属図書館選書専門委員会で購入計画を立案し、計画的に収集を行っている。

平成 21 年度に受審した機関別認証評価において、「学生用図書の一層の充実が望まれる」と指摘されたことを受け、学生用図書の充実に一層努めている。平成 21 年度は通常の学生用図書購入に加え、電子書籍及び参考図書等 1,400 冊を購入し、引き続き平成 22 年度も通常の学生用図書購入に加え、自然科学・工学系の図書を 2,200 冊購入した。平成 23 年度は通常の学生用図書購入に加え、教育・心理・農学系の図書・雑誌を 1,117 冊購入した。

また、平成 24 年度から通常の学生用図書整備に加え、和図書の電子書籍の整備を開始した。平成 24 年度に参考図書を中心に全分野にわたり 121 点、平成 25 年度に 38 点、平成 26 年度は 88 点を購入した。

③シラバス掲載参考図書

学習用図書として特に重点的に収集を図る必要がある資料として、シラバスに掲載されている参考図書がある。新年度当初にシラバス掲載参考図書を利用できるようにしておくには、前年度内に資料を購入し整理しておく必要があり、関連部局、教員、学務部の協力によるシラバスの早期登録、シラバス中の図書情報のシステムティックな抽出機能により実現が可能となった。

平成 26 年度は、参考図書の指定があった全科目について参考図書を発注し、226 冊購入した。

④学生希望図書

学生が図書館で読みたい図書をリクエストできる「学生希望図書制度」を Web システムで運用している。リクエストされた図書は館内で審議を経た後、購入する。図書館利用オリエンテーション等において「学生希望図書制度」について積極的に広報を行っており、平成 26 年度は 434 冊（後述する学生選書委員が選書した図書を含む。）のリクエストがあった。

⑤学生選書委員が選書した図書

平成 18 年度から、読書奨励企画として、本館及び医学分館の蔵書構築作業の一部に学生が参加できる学生選書委員を組織し、「学生選書ツアー」を実施している。選書し購入した図書は、図書館入口に近い場所に特設コーナーを設置して配架している。図書館の中でも人気のコーナーになっており、貸出利用も多い。

⑥佐賀大学の年度計画実施に関連する図書の収集

・就職活動のための資料

学生の就職活動を支援するために、関連する図書を購入している。26 年度は 50 冊の図書を購入

入した。

・ **留学生用資料**

学科推薦図書として、毎年全学教育機構に留学生用図書の推薦を依頼している。26 年度は 64 冊を購入した。

・ **環境教育に関する資料**

26 年度は環境安全衛生管理室と連携して関連図書 41 冊購入した。

・ **情報セキュリティ・リテラシ教育に関する資料**

26 年度は、総合情報基盤センターと連携して関連図書 37 冊購入した。

・ **男女共同参画に関する資料**

26 年度は、男女共同参画推進室と連携して関連図書 56 冊購入した。

⑦資料の除籍

本館は平成元年の竣工以降、増築等を行っておらず、収蔵力の不足は深刻である。学生用図書の毎年の増加分及び研究室貸出図書の返却に伴い、書架に収蔵できない図書を箱詰めにして積み上げざるを得ず、教育・研究を支援する上でかなり支障をきたしている。

平成 23 年度に本館 2 階の書庫を集密書架へ改修し 2 階書庫の収蔵力を倍増させたが、箱詰図書の解消には至らず、以前として狭隘化の問題は残っている。

平成 20 年度に「佐賀大学附属図書館図書除籍要領」を改訂して除籍手続きの簡素化を図り、平成 22 年度に除籍用の作業スペースを確保した。以後毎年計画的に除籍を進めており、平成 24 年度に約 10,000 冊、平成 25 年度に約 5,600 冊、平成 26 年度に約 4,200 冊の除籍を行った。

医学分館

医学分館における研究用及び教育用の図書・雑誌の整備は、医学部教員で構成される医学分館運営委員会による体制をとっている。医学部のシラバスに掲載された参考図書はすべて収集し、また医学部教員等から推薦された図書を委員会で選定し、計画的・系統的に収集している。

平成 23 年度に、より多くの教員推薦図書を収集するために推薦方法の多様化を検討し、平成 24 年度から図書館作成の新刊リストを各講座に配布し、推薦図書にチェックを入れて図書館に返送してもらう推薦方法を開始した。平成 24 年度 561 点、平成 25 年度 260 点、平成 26 年度 336 点の推薦があり一定の成果を上げている。

また、医学・看護学という専門の性格上、常に最新版の資料を収集するよう留意し、所蔵する専門図書、参考図書の改版・新版等を積極的に収集するとともに、改版等や年月の経過により利用価値を減じた図書を除籍し、書架の活性化に努めている。

(2) 資料の提供・活用

**【資料】Ⅲ-1-1 利用対象者数、Ⅲ-1-3 開館時間、Ⅲ-1-4 年間開館日数等、Ⅲ-1-5 入館者数
Ⅲ-1-6 貸出条件、Ⅲ-1-7 館外貸出状況**

1) 開館時間等

本館

①開館時間の拡大

・平成 22 年度に、学生の利用状況を勘案し開館時間を早くする検討を行い、平成 22 年 6 月から、本館・医学分館ともに平日の開館時間を、それまでの 9 時から 8 時 40 分（1 校時開始時刻の 10 分前）へ変更した。これにより、年間開館時間を 30 時間延長した。

- ・平成 22 年 10 月に学部学生全員を対象にアンケートを実施し、その集計・分析結果を基に、利用条件等の最適化を図り、平成 23 年度から試験的に平日の開館時間を 8 時 40 分から 8 時 30 分へ、授業期の閉館時間を 20 時 00 分から 21 時 10 分へ延長した。さらに月 1 回の定例休館日を廃止し、授業期、休業期、平日、週末を問わず、年間を通して原則毎日開館することとした。
- ・平成 24 年度に、開館時間については、試行から正式運用へ移行した。休館日については、利用の少ない 2 月、3 月、8 月の第 4 木曜日（祝日の場合は開館する）を休館することとした。

②24 時間開館

本館では、申請を行った教員に限り磁気カードによる入館方式により、24 時間何時でも図書館利用ができる。

③館内飲食

館内での飲食については一律禁止していたが、平成 21 年度から、長時間にわたる自学自習時の健康を考慮し、館内の特定の場所において一定の基準に合致した飲料物に限り、以下のルールにより試行的に許可した。

- ・許可する飲料物
 - 密封できる蓋付き飲料物（ペットボトル、密封できるビン・カン類、水筒などの容器）
- ・飲用できる場所
 - 閲覧席（飲用後はカバン類へ入れること）
 - 以下の場所での飲用は厳禁
 - PC 席、視聴覚機器の席、書架・書庫、複写機コーナー、歩きながらの飲用
- ・飲み終わった容器は持ち帰ること

医学分館

①開館時間の拡大・変更

- ・平成 22 年度から、土曜日・日曜日に加え祝日も開館するよう変更した。
- ・平成 22 年度に、平日の開館時間を、本館に合わせ 9 時から 8 時 40 分へ変更した。
- ・さらに、アンケート結果を受けて、平成 23 年度から試験的に平日の開館時間を 8 時 40 分から 8 時 30 分へ延長した。
- ・平成 24 年度に、開館時間については、本館と同じく試行から正式運用へ移行した。
- ・平成 25 年度に、24 時間開館を停止した。
- ・平成 26 年度に、24 時間開館に代わり朝 6 時から 8 時 30 分までの早朝開館を試行した。

②24 時間開館

医学分館は磁気カードによる入館方式により、医学部所属のすべての学生と申請を行った医学部の教職員は土曜日・日曜日・祝日の閉館後を除き、24 時間何時でも図書館利用ができる。

平成 25 年度に、利用学生による図書館マナー違反が多発し、また防犯上も夜間に無人で開館することは危機管理の観点から問題があると判断し、平成 26 年度末から 24 時間開館を停止した。

③館内飲食

館内での飲食については一律禁止していたが、平成 21 年度から本館と同条件で許可した。

2) 貸出条件等

本館

- ・平成 22 年度に、学生への貸出状況を勘案し、学部学生等の貸出可能冊数を 5 冊から 10 冊へ増冊した。
- ・平成 23 年度に、シラバス掲載参考図書の貸出期間を 3 日間から 1 週間へ延長した。
- ・平成 23 年度に、延滞時の罰則運用を緩和し、「遅れた日数分貸出停止」から「図書をすべて

返却したら罰則を実施しない」という運用へ変更した。

- ・平成 24 年度に、雑誌の貸出期間を 3 日間とする試行を開始した。
- ・平成 26 年度に、試行の結果、内容を修正したかたちで、雑誌の貸出期間を 1 週間で正式運用した。

医学分館

- ・平成 22 年度に、学内利用者の図書の貸出冊数を 3 冊から 5 冊に増冊した。併せて、小池文庫（シラバス掲載指定図書）の貸出期間を 1 日から 3 日に、視聴覚資料の貸出期間を 1 日から 3 日に延長した。
- ・平成 23 年度に、本館と同様に、延滞時の罰則運用を緩和し、「遅れた日数分貸出停止」から「図書をすべて返却したら罰則を実施しない」という運用へ変更した。

共通

他キャンパス（本庄キャンパスからみた場合、鍋島キャンパス）の図書館に所蔵している図書の貸出・返却手続きは、図書を所蔵している図書館に出向いて貸出・返却手続きを行うか、ILL（図書取寄せサービス）を利用して図書を取寄せていた。

平成 23 年度に、返却について図書の所蔵館に出向かないで返却ができるようにした。

平成 26 年度に、蔵書検索画面の図書取寄せ機能を使うことにより他キャンパスの図書館に所蔵している図書を利用者が所属するキャンパスの図書館に取寄せることができるようにした。

3) 入館者数・貸出冊数

本館

入館者数は平成 21 年度の 32 万 4 千人をピークに、平成 22 年度はやや減少、平成 23 年度に 32 万人台へ回復したが、平成 24 年度は約 2 万人減少した。平成 25 年度以降は、30 万人前後を維持している。

一方、減少傾向にあった館外貸出冊数は平成 21 年度から増加に転じ、平成 25 年度まで増加し続けたが、平成 26 年度は前年度より約 2,000 冊減少した。

医学分館

平成 20 年度から「国立大学法人佐賀大学鍋島キャンパス冷暖房細則」に基づき空調の運転時間を 9 時から 17 時 15 分までにしたことから、夏場を中心に学生の利用が大きく落ち込んだ。

この空調運転時間短縮に対する利用者からのクレーム等に対応し、平成 22 年度から空調運転を 21 時まで延長した。この結果、入館者数は前年度を上回る傾向が続いている。

また、平成 21 年度に一旦落ち込んだ貸出冊数は、22 年度以降やや増加傾向にあったが、平成 24 年度から再び減少に転じた。

平成 26 年度は、貸出冊数が平成 25 年度より約 400 冊増加した。

(3) 情報リテラシー教育支援（図書館オリエンテーション）

【資料】Ⅲ-1-8 オリエンテーション実績（本館）

本館

毎年、入学式の配布資料として附属図書館発行の情報誌「さらり」を新入生全員に配布すると共に、入学式後のオリエンテーションで附属図書館の紹介を行っている。

実際的な利用方法等については、4月中旬から5月末にかけて「図書館オリエンテーション」を開催して、その中で案内している。これは原則として、教員の申請に従って各授業科目の時間内に、附属図書館職員が担当して行うものである。初級コースと中級コースに分かれており、初級コースは基本的な図書館の利用案内、中級コースは電子ジャーナルや文献データベース等の利用方法等の説明を行っている。

医学分館

毎年、医学部の新入学生（医学科 106 人、看護科・編入生 60 人、大学院修士課程学生若干人）と新採用看護職員（本学卒業生を除く）50 人前後を対象にオリエンテーションを行っている。新入生に対しては担当教員の協力により情報基礎演習などの授業時間を利用して行っている。大学院博士課程の学生を除いて、ほぼ全員が受講している。

（４）学外図書館からの文献入手(図書館間相互貸借 ILL : Inter Library Loan)

【資料】Ⅲ-1-9 図書館間相互貸借冊数、Ⅲ-1-10 図書館間の文献複写件数

本学では国立情報学研究所の NACSIS-ILL システムを使っているが、このシステムの報告を見ると国立大学全体でこのシステムの利用件数が減少している。これは各国立大学が電子ジャーナルをパッケージ導入したために、各大学で読むことのできるタイトル数が飛躍的に増えたことによる影響と考えられる。本学においても学外から依頼される文献複写や図書の貸出件数は減少傾向にある。

学外の図書館に手配する文献複写件数も、減少傾向にある。これは電子ジャーナルの充実と利用者の習熟度向上によるものと思われる。

電子ジャーナルの充実と利用者の習熟度向上により単純な文献入手依頼は減少したが、入手の難しい文献についての依頼の割合が増えてきている。依頼件数が減少してはいるが、業務的には一件ごとの処理に時間を要するものが増えてきた。

（５）読書奨励

１）読書奨励企画

『2011 年版大学ランキング』（朝日新聞出版 2010）において、佐賀大学附属図書館は学生一人当たりの貸出冊数が 3.9 冊で、C ランクにランク付けされ、国立の総合大学 47 大学中 47 位であり、1 冊も図書を借りたことがない学生が全体の半数を超えていた。

この状況を改善するため、平成 22 年度から学生の読書力向上のため、「あげる佐賀 48 プロジェクト」を立ち上げ、新刊図書の分野別重点整備、開館時間の延長、貸出条件の緩和、学生選書の推進、書架の増設、配架の工夫、古くなった図書の除籍の推進等、図書館の総力を挙げた施策を行った。その結果、学生一人当たりの貸出冊数が平成 23 年度末に 5.9 冊、平成 25 年度末には 7.1 冊と増加したが、平成 26 年度末は 6.9 冊と伸びが止まった。

その間、『2014 年版大学ランキング』（2013）では図書館評価が B ランクにアップし、平成 24 年度には図書を借りる学生の割合が 50%を超えた。

２）学生選書委員会による活動

平成18年佐賀市内に大型書店が開店したのを機会に、本学の学生が書店内で図書を手にとって選書できる書店選書「選書ツアー」を開始した。この企画は「欲しい本が無い」という学生の声に応えることと、学生選書委員の公募から選書等の委員会活動を図書館のPRの素材に利用することに加え、学生からの潜在的な要望を直接図書館が収集することを目的とした。

・平成 22 年度

学生選書委員会の名称を「さらりーず」と命名し、より深く活動に関わってもらえるよう、委員長を選出した。選書ツアーの際には、福岡市総合図書館や佐賀県立図書館を訪問し、バックヤードやディスプレイなどを見学した。また、今年度初めて、図書の ID コードラベル貼りや請求記号ラベル貼り、又は購入した図書を特設コーナーに展示する作業などの仕事体験も行い、積極的に活動してもらうことができた。

・平成 23 年度

選書ツアーの際には九州国立博物館を見学し、交流展示室やバックヤードを案内してもらった。また、学生選書委員から編集委員を選出し、「さらりーず」の活動を広報するリーフレットを作成して図書館利用者に配布した。

・平成 24 年度

選書ツアーの際に福岡大学図書館を見学し、自動書架やラーニング・コモンズ等を案内してもらった。また、選書した図書は、学生選書委員がグループごとにテーマを決めて資料展示を行った。

・平成 25 年度

選書ツアーの際に、BIZCOLI ビズコリ（九州経済調査協会の会員制図書館）や全国的に話題になっている武雄市図書館を見学した。

・平成 26 年度

選書ツアーの際に、福岡市総合図書館、九州大学伊都図書館や武雄市図書館を見学した。九州大学伊都図書館を訪問した際には、九州大学の院生で組織する Cuter（学習サポーター）との意見交換を行った。

3) ライブラリーラバーズ（Library Lovers' キャンペーン）の活動

平成 22 年が国民読書年に指定されたことから、大学においても学生に図書館の存在を再認識してもらい、図書館利用の促進、来館者数増加を図ることを目的として、九州地区の各大学図書館の若手職員が中心となり、キャンペーン活動を行っている。

平成 22 年度は、秋の読書週間に『オススメの 1 冊』学生コンテストを実施した。平成 23 年度は、国立、公立、私立を含めた九州地区大学の合同企画として『読書の木』イベントを実施した。平成 24 年度は、九州地区大学合同企画「本で、旅する。 - 九州文学地図」イベントに参加し、図書のお薦めコメントを集めた。平成 25 年度は、九州地区大学合同企画「収穫の秋 - 九州まるっと収穫祭」イベントに参加し、図書のお薦めコメントを集めた。当館独自の企画として、農学部附属アグリ創生教育研究センターの協賛により、当センターで収穫した芋を使った関連イベントも実施した。

平成 26 年度は、九州地区大学合同企画「衝撃のワンフレーズ - このひと言が、あなたを変える。」に参加し、コメントを集めた。

(6) 自学自習環境の整備

【資料】Ⅲ-5-1 面積・閲覧座席数・書架収容力、Ⅲ-5-2 図書館利用者用端末台数 Ⅲ-5-3 アクティブ・ラーニング・スペース

本館

図書館内の利用者用パソコンを、75 台設置している。総合情報基盤センター内の演習室に設置してあるパソコンと同じ環境で利用ができ、学習及び研究目的で活用されている。

また、利用者の多様な学習スタイルに対応するため、本館では、ラーニング・コモンズ、グループ学習室 5 室、閲覧個室 4 室、マルチメディアコーナーを設置している。空調については、平成 24 年度から平成 25 年度にかけて扇風機を整備し、夏季の暑さ対策として活用している。

平成 23 年度に老朽化した閲覧室の椅子 54 脚、平成 24 年度には約 100 脚を入れ替えた。

同じく 23 年度には教務課と共同で 1 階自習室に、学習支援等を行う学習アドバイザースペース

スを設置したが、利用の低迷から 24 年度には撤去した。

また平成 24 年度には、利用者の声を受け、貸出利用の多い語学学習用図書を、専用コーナーを設置して配架するようにした。

平成 25 年度は、7 月に来館学生を対象とした図書館の学習環境についての重要度・満足度調査アンケートを実施し、その結果に基づき優先順位の高い項目（私語、座席数など）について改善を行った。

また、平成 25 年度からのアクティブ・ラーニング方式を取り入れた大学教育の本格開始に伴い、学生の授業時間外におけるグループワーク等を支援するため、年度末に自習室に可動式の机と椅子を整備してラーニング・コモンズに一部リニューアルした。ラーニング・コモンズの整備は、アンケート結果の私語問題、座席数不足の改善（20 席増）にも寄与する結果ともなった。

平成 26 年度は、9 月にマルチメディアルームをアクティブ・ラーニング形式の授業ができるグループ学習室に改修し、授業での予約利用もできるようにした。3 月には、ラーニング・コモンズのほとんどのパソコンを移動させ、可動式の机と椅子を追加整備し、座席数を 40 席から 70 席へ増加した。

この他、利用者の安全確保のため、本館、分館とも館内の要所に防犯カメラを設置している。なお、防犯カメラの運用は附属図書館運営委員会が定めた「佐賀大学附属図書館防犯カメラ運用内規」に基づいて運用している。

医学分館

医学分館でも利用者の多様な学習スタイルに対応するため、ビデオ・スライド室 2 室、LL 室を設置している。

また、平成 20 年度から「国立大学法人佐賀大学鍋島キャンパス冷暖房細則」に基づき、9 時から 17 時 15 分まで空調運転をしていたが、平成 22 年度から夏季の夜間の冷房運転を 4 時間延長して 21 時までとした。さらに空調停止後の対策として、平成 22 年度に閲覧室に大型扇風機を 3 台増設した。

平成 24 年度に 18 席の増加を行った。

平成 25 年 3 月に 1 階の新聞雑誌室を多目的学習室とし、可動式の机・椅子を 12 席揃え、ラーニング・コモンズとして活用できるよう改修を行った。

平成 26 年 3 月に館内設置の利用者用パソコンを 10 台増設し、合計 62 台とした。

（7）図書館ポータル

【資料】Ⅲ-1-11 図書館ポータル サービス名およびアクセス数（平成 26 年度）

平成 21 年度末の図書館システムの更新で従来の学生希望図書申込み、文献複写依頼、グループ学習室予約、図書館への質問等の窓口機能に加え、特定利用者グループへのお知らせ、貸出図書の履歴確認、ベストリーダー（貸出上位図書）情報の提供、読書プランの作成や教職員お薦め本の登録や利用者によるブックレビューの登録による図書館利用者間での読書コミュニティの構築を行った。

平成 24 年度には、利用者の声を受け、グループ学習室の予約時に各室の様子がわかるように予約申込ページの改善を行った。

平成 26 年度の利用状況は ILL 依頼や貸出状況照会、施設予約関連サービスの利用度が高く、新着雑誌一覧やレファレンス（ASK サービス、FAQ サービス）といった機能の利用度が低いという結果になっている。

(8) 広報

【資料】Ⅲ-1-12 図書館 Web ページのアクセス数

1) Web サイト

図書館 Web サイトを開設して、図書館の利用に関する各種案内、利用者用オンライン蔵書目録(OPAC: Online Public Access Catalog)等のサービスを行っている。

Web サイトは図書館職員が作成・運用してきたが、平成 23 年度に外部委託してリニューアルを行った。サイト構成を全面的に見直し情報の整理を行うと共に、CMS を取り入れて各ページをタイムリーに更新できるようにした。また、各ページの利用状況を把握し改善に役立てられるようにアクセス解析の仕組みを取り入れた。

平成 26 年度には学生の自学自習をサポートするために、「資料情報の探し方ガイド」のページについて見直しを行い、コンテンツとナビゲーションの改修を行った。

図書館 Web サイトへのアクセスは、平成 26 年度はやや減少している。デバイス毎のアクセス割合を見ると、PC 以外からのアクセスが年々増加しており、平成 26 年度は全体の 24%を占めている。

2) 広報誌の見直し

学生向けの情報、利用統計、各種報告、図書館関連の活動報告等の広報手段として、図書館報「ひかり野」を年 1 回刊行していたが、読者対象が広すぎたという分析をもとに、平成 21 年度から、学生をターゲットにした情報を抜き出して新たな情報誌「さらり」として独立させた。これ以外の情報は引き続き図書館報「ひかり野」として学習支援、研究支援、地域貢献を軸に掲載内容を整理しリニューアルして刊行している。

3) 図書館 ML 通信

学内広報として、講演会の開催通知、データベーストライアルの案内、図書館サービスの案内等を教職員全員に電子メールで配信する「図書館 ML 通信」を運用している。平成 26 年度は 108 号から 116 号を配信した。

4) マスメディアの利用

市民に対する図書館利用の広報活動として、附属図書館の様々な企画について地元紙を中心にした新聞及びテレビに掲載・放送を要請する一方、取材を積極的に受け入れている。

5) マスコットキャラクター

利用者に図書館を身近に感じてもらうことを目的に、佐賀大学内に生息する野鳥であるカササギをモチーフに作成したキャラクター(「らいぶくん」と「らりいちゃん」)を新情報誌「さらり」、葉やブックカバーに印刷して利用者へ配布している。

なお佐賀大学の公認マスコットであるカッチーくんではなく、図書館独自のキャラクターを利用した広報を行なうことに対しては、大学広報室長の下承を得ている。

6) 図書館ツイッター

平成 24 年 1 月からツイッターを活用した新刊本の入荷情報、資料の配架案内など、図書館からのさまざまな情報発信を開始している。

(9) 課題及び評価

1) 課題

・資料の計画的収集

大学予算が削減される中、経費の継続的・安定的な確保が課題である。また、機関別認証評価において、「学生用図書の一層の充実が望まれる」と指摘された点、及び平成 22 年 10 月に学部学

生全員を対象にしたアンケートの調査結果から、学生が図書館資料の品揃えに不満を持っていることが伺われる。資料の選定が学生の要望とマッチしていないと考えられ、よりの確なニーズの把握と資料選定が必要である。

・電子書籍の整備・充実

学生の授業時間外の学習時間不足が指摘される中、図書館に足を運ばなくても貸出禁止の参考図書を中心とした図書館資料の利用が可能となる電子書籍の更なる整備・充実が望まれる。予算確保と資料選定基準の策定が必要である。

・情報リテラシー教育支援（図書館オリエンテーション）

図書館オリエンテーションは、本館では、授業時間内に4月・5月の2か月にわたって実施しているため、担当職員の負担が重く、通常業務に影響を与えているため、授業カリキュラムへの組み入れなど、効率的に多くの学生が受講できる制度の検討が必要である。また内容面でも、現在行っている初級・中級コース以外にテーマ別の内容等で特化したオリエンテーションを実施していく必要がある。

・読書奨励

学生一人当たりの貸出冊数が平成26年度に伸びが止まった。平成25年度末の6.9冊は国立の総合大学の平均9.4冊にはほど遠く、新たな読書奨励策を行っていく必要がある。また、学生選書委員の活動も「学生協働」という観点から新たな取組を展開していく必要がある。

・自学自習環境の整備

「学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）」（科学技術・学術審議会 学術分科会 学術情報委員会 平成25年8月）において言及され、他大学図書館でも整備が進められているアクティブ・ラーニングに対応した自学自習空間（ラーニング・コモンズ）を整備したが、その利活用について教員サイドと連携を図ることが必要である。

また、平成25年度に初めて実施した重要度・満足度調査を今後も定期的の実施し、利用者ニーズ等を的確に把握していくことが必要である。

・図書館ポータル

利用されるメニューをみると、学外図書館からの文献入手依頼やグループ学習室使用の申込等の利用は多いが、それ以外の新着雑誌一覧やレファレンス（ASKサービス、FAQサービス）などは少ない。利用すれば学習に役に立つ機能・サービスなので、認知度を高めることが課題である。

・図書館 Web ページ

PC 以外からのアクセスが増加しており、それぞれのデバイス毎に最適な表示ができるように改修を検討する必要がある。

・広報

広報対象を特化したものとして、学生向け情報誌「さらり」を新入生全員に配布しているが、認知度は高くない。また、ML 通信は教職員宛の電子メールによるメーリングリストであるが、学生あての電子メールによる広報が出来ていない。23年度に開始したツイッターによる広報は有効な方法だと認識しているが、さらに認知度を上げていく必要がある。

2) 評価

・資料の計画的収集

教員及び図書館職員による選書専門委員会と、学生による学生選書委員会が両輪となって蔵書構築を進めており、収集体制として優れていると判断できる。

シラバス掲載参考図書の収集については、講義の始まる年度の初めには書架に並べられ、全点が利用可能な状況に整備されており、優れた取組を実施していると判断できる。

学生用図書の充実に向けて、平成 22 年度には自然科学・工学系の図書、平成 23 年度には教育・農学系の図書を集中的に収集し、かつ除籍を進めて開架書架から古くなった本を除くことにより書架の活性化を図り、利用効率を高めたことは高く評価できる。

・電子書籍の整備・充実

従来、研究支援と位置付けていた電子書籍の整備を、主たる目的を学習支援に切り替え和図書を中心に整備を進めていることは、授業時間外の学習時間増への支援やグループ学習支援という点等から評価できる。

・資料の提供・活用

アンケート調査結果を基に、開館時間の拡大や貸出条件の緩和等の改善を行うとともに、長時間滞在する利用者のために飲食制限を緩和し、自学自習環境の充実を図っていることは、利用向上の取組として優れていると判断できる。

また、23 年度と 26 年度に実施した、本館（医学分館）間での図書の貸出返却手続きの利便性向上策は、利用者ニーズに対応したという意味で高く評価できる。

・情報リテラシー教育支援（図書館オリエンテーション）

図書館オリエンテーションは授業時間を使用して実施されており受講者数も多く、優れた取組と判断できる。

・読書奨励

国立の総合大学中最下位であった学生一人当たりの貸出冊数を、図書館の総力を挙げて大きく引き上げたことは高く評価できる。中でも、学生選書委員会の活動は、選書ツアーを始めとして、図書の展示や仕事体験等の年間を通じた幅広い活動へと拡大し、学生選書委員が選書した図書は他の学生の注目度も高く、利用の拡大につながっており、優れた取組を実施していると判断できるが、読書奨励に限定しない次ステージの検討も必要であろう。

・自学自習環境の整備

利用者用端末数は同規模大学の平均より多く、グループ学習室など多様な学習に対応する施設も整備しており、自学自習環境として高く評価できる。

平成25年度に行った本館・医学分館のラーニング・コモンズの整備は、アクティブ・ラーニング方式を取り入れた大学教育の支援策として評価できる。また、学生の図書館学習環境の評価指標として重要度・満足度の概念を取り入れ、統計学的手法により改善優先度等を可視化したことも評価できる。

・広報

広報誌を見直し、学生に特化した情報を抜き出して新たな情報誌の編集を行っていることは高く評価できる。また、マスコットキャラクターを活用して、図書館の活動をより効果的に学内外へ周知する工夫を行っていることは、広報活動として良好と判断できる。

平成 23 年度に実施した Web ページの見直しの際、新しい管理技術 CMS を導入して容易にかつタイムリーに情報を更新できるようにした点は評価できる。

2 研究支援

(1) 研究用資料の収集

図書、学術雑誌その他の教育研究上必要な資料は附属図書館長の管理下に置き、附属図書館、学部、センター等へ配置している。

資料の有効利用のため、附属図書館では図書、学術雑誌、電子ジャーナル等すべての資料を包含した蔵書データベースを維持管理し、所蔵・配置等の最新情報を Web 上で公開して利用の便を図っている。

本庄キャンパスの図書配置割合は、附属図書館約 70%、部局等約 30%である。学術雑誌は、附属図書館に農学・理工系学術雑誌を集中的に配架し、利用に供している。一部の学部等では、学部や学科等の単位で図書資料室を置き、専門領域に関する図書・雑誌をはじめ国内外の大学論集・紀要等を収集配架している。

鍋島キャンパスでは、旧医科大学時代から全図書、全雑誌を医学分館に集中配架し、教員、学生・院生の研究及び教育に供している。

(2) 電子ジャーナル

【資料】Ⅲ-2-1 電子ジャーナル導入状況、Ⅲ-2-2 電子ジャーナル経費 Ⅲ-2-3 電子ジャーナルアクセス数

平成18年度からの電子ジャーナル導入経費は全額中央経費で負担、契約形態は総合型の電子オンリー契約としたが、平成23年度の予算委員会において、「平成24年度佐賀大学予算編成の基本方針」の中で、電子ジャーナルの経費負担の在り方について検討を行い結論を得ることを求められ、平成24年度に「電子ジャーナル等専門委員会」を設置して平成25年度から平成27年度の措置について検討を行い、平成25年度から電子ジャーナル及び引用文献データベースScopus経費の一部を部局負担とすることとした。また、エルゼビアのサイエンスダイレクトは、経費節減のため、平成25年度から平成27年度までの3年間契約を行った。

平成26年度に「電子ジャーナル及び文献データベース検討専門委員会」を設置して平成28年度以降について検討を行い、Elsevier社のScienceDirect及びScopusの3年間（平成27～29年度）の継続契約を決定した。他の電子ジャーナルや部局負担の在り方についても引き続き検討を行う。

また、無料電子ジャーナルの管理合理化のため、平成21年度の図書館システム更新の際に電子ジャーナル管理ツール（リンクリゾルバ）を導入した。

さらに、大学に予算要求を行い、電子ジャーナルバックファイルも購入整備し、利用者の利便性を高めている。

(3) 電子書籍

【資料】Ⅲ-2-4 電子書籍導入状況、Ⅲ-2-5 電子書籍経費 Ⅲ-2-6 電子書籍アクセス数

平成21年度から電子書籍の整備を進めてきた。平成24年度からは学生の自学自習支援を整備方針の中心に据え、自宅等からの利用やラーニング・コモンズでの利用を意識して、和書の辞書事典類、入門書等を中心にした整備を行った。平成25年度以降も和書を中心に電子書籍の整備を行い、18,365点の和書・洋書の電子書籍へのアクセスが可能となっている。平成26年度は利用促進のために、図書館Webページやメール配信による広報を行った。また、アクセスの利便性を図るために、図書館Webページに電子ブック専用ページを作成するとともに、和書の蔵書検索がで

きるように目録の整備を実施した。平成 26 年度の和書へのアクセス数は前年度より約 570 件増加している。

また、コンテンツを利用するための機器として、平成 24 年度にタブレット端末（i-Pad）の整備を行い、平成 25 年度から貸出を行っている。

（４）文献等データベース

【資料】 Ⅲ-2-7 文献等データベースサービス

Ⅲ-2-8 文献等データベースのトライアル及び説明会開催状況

文献等データベースは電子ジャーナルとともに大学の教育・研究において必須であり、平成 19 年度以降不定期ではあるが、トライアルや教職員、大学院生を中心にアンケートを実施し、ラインナップの見直しを行ってきた。

平成 22 年度には、EBSCO 社製の引用文献データベース的機能を持つ Academic Search Premier のサービスを開始した。また、平成 23 年度に医学・看護学系の日本語文献データベース「メディカルオンライン」のサービスを開始した。

利用者から導入を望む声が強かった引用文献データベース Elsevier Science 社の Scopus は高額であることが障害となり導入が困難だったため、上記 Academic Search Premier の導入で凌いだが、平成 22 年度にトライアル、学部教授会説明、アンケート等の結果により再度大学に整備を要望し、大学の諸会議での審議を経て平成 24 年度からサービスを開始した。

また、平成 22 年 3 月から、電子ジャーナル本文を効率よく利用できるよう、各種データベースと電子ジャーナルの本文をリンクさせるリンクリゾルバを導入している。

平成 25 年度は、Scopus の利用促進のためにオンライン講習の案内やパンフレットの配付を実施した。また利用状況等を把握するためにアンケートを実施した。平成 26 年度は Scopus の専任講師を招き、全学的な講習会を開催した。

（５）目録情報の電子化

平成 15 年度末に図書館（保存書庫を含む。）配置のすべての図書及び一部の研究室を除く研究室貸出図書約 30 万冊について作業を完了した。平成 21 年度には研究室所蔵の製本雑誌を除く目録遡及入力は完了した。

一方、法人化以降、蔵書は"図書資産"として 1 点ごとの資産額の管理が求められ、平成 21 年度に図書資産データベースを構築し、1 点ごとの管理を実現することができた。

（６）研究情報・文献情報の電子化

【資料】 Ⅲ-2-9 佐賀大学機関リポジトリ登録数及び閲覧数

1) 図書館システム

平成元年から稼働を開始した本学の図書館システムは、定期的な更新を行い、全業務のシステム化及びネットワークに対応した検索サービスの提供を実現してきた。平成 21 年度末の更新では法人化後の課題であった図書資産データベースの構築、財務会計システムとの連携を実現した。サービス面においては、総合情報基盤センターのシングルサインオン認証機能に対応した図書館ポータルを稼働させ、Web サービスの充実を図った。平成 26 年度末の更新では、これまでの機能を踏襲しつつ、画面や操作性等の衣替えを行った。

2) 佐賀大学機関リポジトリ

本学総合情報基盤センターと連携して構築・運用を行ってきた「電子図書館システム」内に保有していた紀要論文、博士論文、貴重書、ファクトデータベース（植物遺伝資源データベース）、オンラインシラバスのコンテンツを移行して、平成 20 年 3 月に「佐賀大学機関リポジトリ」を正式公開した。

平成 21 年度末の図書館システムの更新時には搭載コンテンツの整理を行い、紀要論文、博士論文を主として収集するようにし、現在もその方針を続けている。平成 22 年度には、機関リポジトリのトップページを改良し、「新着コンテンツ案内」「アクセスランキング」「ダウンロードランキング」「紀要名」等を掲載し、「紀要名」から紀要論文へ容易にたどれるようにした。

紀要論文登録時の著作権処理について各部局との交渉を進め、平成 26 年度現在 14 誌の掲載論文の包括許諾を得ている。これにより、発刊と同時に個々の著作権処理をすることなく、ただちに佐賀大学機関リポジトリに登録できるようになった。

また、平成 23 年度には国立情報学研究所の学術機関リポジトリポータルである JAIRO との連携ができなかった原因を解消して、JAIRO との連携を果たした。

(7) 課題及び評価

1) 課題

・電子ジャーナル

電子ジャーナルは、大学の研究情報基盤として特に重要であるが、非常に高額であるうえ毎年値上がり続けている。大学の予算が削減される中、経費確保が重要な課題であり、平成 24 年度に電子ジャーナル経費負担の在り方について検討を行い、平成 25 年度から平成 27 年度までの 3 年間について経費の一部を部局負担とすることで経費の安定確保を実現した。

平成 28 年度以降の措置について、平成 27 年度上半期に結論を出すことが必要である。

・電子書籍

今後も計画的な整備を進め、学生への周知や利用促進のための策を継続するが必要である。

・文献等データベース

平成 24 年度から電子ジャーナルとセットで引用文献データベース Scopus を導入することができたが、教員には電子ジャーナルが「主」、文献データベースは「従」という考え方も根強い。しかしながら、大学院生の研究環境整備という点では Scopus の継続導入は重要であると考えられる。そのため利用拡大策を充実させていく必要がある。

また、他のデータベースについても、アンケート調査、利用データ分析等により定期的にラインナップの再検討を行う必要がある。

・研究情報・文献情報の電子化

機関リポジトリの登録件数は、同規模国立大学と比較して、二次情報登録件数は多いが、一次情報は少ない。一次情報の登録増のためには、著作権許諾等も含めた学内合意形成を進める必要がある。

2) 評価

・電子ジャーナル

全学的な組織である電子ジャーナル専門委員会を設置し、学内アンケート、利用状況調査、利用データ分析等を実施のうえ、今後の整備方針を検討し結果を取りまとめている。その整備方針を受け、全国のコンソーシアムへ参加しつつ、安定した継続供給に向けて努力し、適正規模の維持を達成している。

また全国的に課題となっている経費の安定確保については、平成 25 年度から平成 27 年度の 3 年間について経費の一部を部局負担とすることで、当面ではあるが安定確保を実現できたことは評価できる。エルゼビアのサイエンスダイレクトについて、3 年契約を果たしたことも評価でき

る。

平成 28 年度以降の措置について、議論を尽くして結論を出すため、平成 26 年 12 月から専門委員会で検討を行っていることは評価できる。

・電子書籍

平成 25 年度以降に計画するラーニング・コモンズの整備に備えて、学部学生向け電子ブックの整備を行い、平成 26 年度も継続して整備を行ったことは評価できる。またコンテンツの整備だけでなく、利用するための機器としてタブレット端末 (i-Pad) の整備を行い、貸出を行っていることは評価できる。平成 26 年度の積極的な広報やアクセスの利便性を図ったこと、和書の利用が増加したことは評価できる。

・文献等データベース

文献等データベースは、アンケートを実施し利用状況を把握したうえで適宜見直しを行い、最適なデータベース導入を図っていることは高く評価できる。

また、図書館の予算では導入が困難で長年大学予算での導入に向けて取り組んできた引用文献データベース Scopus の平成 24 年度からの導入を実現したことは評価できる。平成 25 年度に、全教員、全大学院生を対象とした利用アンケートを実施し、利用者の利用状況等を把握したことは評価できる。平成 26 年度に全学的な講習会を開催したことも評価できる。

・目録情報の電子化

目録遡及入力完了している点、及び図書資産データベースを構築し図書 1 点ごとの管理を実現することができた点は高く評価できる。

3 社会貢献

(1) 市民への情報サービス

【資料】Ⅲ-3-1 一般市民への貸出状況

1) 閲覧・貸出サービス

市民への閲覧サービスは、本館、分館ともに旧来から実施している。市民への貸出は、本館は平成 11 年 10 月から、分館は平成 15 年度から図書の貸出を実施している。なお、分館では市民への貸出は、専門教育関係は貸出せず、一般教育関係のみ貸出できるようにしている。

2) 文献複写サービス

本館にはプリペイドカード式複写機及びコイン式複写機、分館にはコイン式複写機を導入しており、著作権の範囲内で複写サービスを行っている。

3) 検索サービス

本館では、一般市民も利用できるパソコンを 13 台設置しており、平成 20 年度および平成 25 年度に機種を更新を行った。医学分館では、館内設置のパソコン 2 台で蔵書検索や情報検索が利用できる。

本館、分館ともに利用者登録を行った方で利用申請される方にインターネットや電子ジャーナル等が利用できる ID を発行している。

4) 施設利用

一般市民に対し、年齢制限、居住地制限もなく自由に館内資料を利用できるようにしている。また、貸出サービスも行っており、運転免許証などにより住所確認ができれば、来館初日に資料を貸し出している。さらに、『佐賀県公共図書館と佐賀県大学図書館間の相互貸借規程』の制定に深く関与し、県内図書館間の相互貸借システムや横断検索システムに参画する等県内図書館との連携を行っている。

館内でのサービスとしては、文献複写サービス、検索サービスに加え、学生教職員の利用に支障のない範囲でグループ学習室も利用できるようにしている。

市民への貸出冊数は増加の一途である。

5) 佐賀県内図書館との相互貸借システム

本館・医学分館ともに公共図書館等からの依頼に応じ、文献複写・図書貸借サービスを行っている。医学分館は近隣の病院図書室等からの依頼にも応じ、文献複写・図書貸借サービスを行っている。

平成 19 年 1 月 1 日から、県内の大学及び公共図書館間で相互貸借協定を締結し、最寄りの大学または公共図書館を窓口に関内各所の図書館の蔵書が利用できる仕組みが構築できた。現在、公共図書館 50 館・室、大学図書館 6 館・室が本協定に参加している。

6) 佐賀県内図書館横断検索システム

平成 17 年に稼動した佐賀県内図書館横断検索システムに参加して、県内の図書館と一体となった地域への蔵書検索サービスの提供を行っている。佐賀県内図書館横断システムは、佐賀県立図書館、県内の市町村立図書館及び県内の大学図書館を対象に、横断的に各館が所蔵している図書の検索を可能にしたシステムであり、現在、公共図書館 38 館と大学図書館 5 館が参加している。

(2) 公開講座(講演会、展示会)

【資料】Ⅲ-3-2 図書館月間 講演会 Ⅲ-3-3 図書館月間展示会

附属図書館では、図書館利用の活性化や一般市民の図書館利用の促進を図る目的で、11月を図書館月間と称して、平成13年度から毎年11月に、公開セミナー、講演会、貴重資料展示等を行っている。毎年、マスコミへの情報提供、県内の公共図書館やテーマに合致する関係等に対する広報とポスター貼付とチラシ配布の依頼、過去の講演会参加者へのダイレクトメール等により周知をはかっている。

1) 講演会

平成26年度は、「有田焼」をテーマに、元佐賀県立九州陶磁文化館館長大橋康二氏による「有田磁器の創始と発展－400年の歴史をたどる－」と題した講演会を開催した。また、佐賀大学デザイン思考プログラム委員会との共催で、ワークショップ「国際デザイン思考ワークショップ－有田のこれからを探る－」を開催した。

2) 資料展示

テーマに沿った「有田焼」関連図書を館内展示した。

(3) 地域資料の収集

【資料】Ⅲ-3-4 附属図書館所蔵コレクション

地域資料の収集については、平成16年度に岡本悟名誉教授より寄付金を受贈し、これを岡本基金として地域資料の購入に充当することを決定した。貴重資料・地域貢献専門委員会において選定作業を進めた結果、平成19年度に「洋学資料コレクション」と「大内文庫」を購入した。

一方、地域学歴史文化研究センターや総合情報基盤センターと連携しながら、小城鍋島文庫資料(日記目録)や市場直次郎コレクション(扇面、大津絵節)の電子化、目録作成(和書、短冊、書巻等)を進めている。また、保存用桐箱の購入等、資料保存環境を整備した。

(4) 貴重資料の利用

【資料】Ⅲ-3-5 貴重資料の利用

毎年、本学地域学歴史文化研究センターと佐賀県小城市教育委員会の共催で開催される企画展等に貴重資料を貸し出している。

平成23年度には、佐賀県鹿島市教育委員会と「小城鍋島文庫のデジタル閲覧に関する協定書」を締結し、鹿島市教育委員会が小城鍋島文庫のデジタル写真を活用できるようにした。

平成26年度は、以下のとおり貴重資料の提供を行った。

- ①地域学歴史文化研究センターが図録「小城城下と牛津宿」を出版する際に、「小城鍋島文庫」の資料を貸し出した。
- ②地域学歴史文化研究センターと小城市教育委員会の共催で開催された展示会「小城城下と牛津宿－小城藩政の展開と人びとの経済活動」に「小城鍋島文庫」の資料を貸し出した。
- ③佐賀市佐野常民記念館で開催された企画展「実録『火城』伝～幕末佐賀のテクノクラート～」に附属図書館所蔵の小城鍋島文庫から資料を貸し出した。
- ④佐賀大学美術館で開催された「医学のあけぼのから先端医療まで」に附属図書館所蔵の小城鍋島文庫を貸し出した。

(5) 課題及び評価

1) 課題

・貴重資料の利用

今後、所蔵コレクションの利用を進めるために、地域学歴史文化研究センター等、学内外の研究施設・研究機関等へ協力を仰ぎ、貴重資料についての識見を持つ職員の育成に努力する必要がある。

2) 評価

・市民への情報サービス

一般市民の利用に便宜を図っていることは高く評価できる。また、『佐賀県公共図書館と佐賀県大学図書館間の相互貸借規程』の制定に関与し、県内図書館間の相互貸借システムや横断検索システムに参画していることも地域に密着した大学図書館としての自覚があり評価できる。

・公開講座(セミナー、講演会、展示会)

図書館月間を継続的に開催しており、社会貢献活動としての取組を実施していると判断できるが、惰性化した面もある。評価するとともに、今後の在り方について検討していく必要もあろう。

・貴重資料の利用

毎年、館外の展示会等へ貴重資料を貸出しており、利用としての取組を実施していると判断できる。

4 組織運営

(1) 組織の編成・管理運営

【資料】Ⅲ-4-1 附属図書館組織・機構図

1) 館長・副館長

佐賀大学は、平成 15 年 10 月に旧佐賀大学と旧佐賀医科大学が統合し、新佐賀大学となった。附属図書館は、本庄キャンパスに本館を、鍋島キャンパスに医学分館を置く体制とし、本館に図書館を統括する館長を置き、医学分館には分館を統括する医学分館長を置いた。この体制は法人化以後も継続したが、平成 18 年 4 月、館長にかかる負荷を軽減し、2 人体制で諸般の課題解決に向かうため、館長・分館長体制を改め、館長・副館長体制とした。

図書館長は、附属図書館の業務を掌理し、附属図書館に設置した各種委員会の委員長として審議の取り纏めを行うとともに、学内の教育研究評議会、大学評価委員会、情報政策委員会等の委員として大学の管理運営に参画している

2) 運営委員会

①附属図書館運営委員会

平成 16 年 4 月の法人化後、新たに制定された佐賀大学図書館規則第 5 条第 2 項の規定に基づき、佐賀大学附属図書館運営委員会を設置した。医学分館には、佐賀大学図書館規則第 6 条第 5 項に基づき附属図書館医学分館運営委員会を設置した。

佐賀大学附属図書館運営委員会は以前の委員会と同様に附属図書館の運営方針、諸規程の制定・改廃、予算等に関する重要事項を審議する組織で、附属図書館長（委員長）、副館長、及び各学部から選出された教員 5 人、総合情報基盤センター長、教養教育運営機構長で構成されている。

また、附属図書館運営委員会の下に、附属図書館運営委員会から付託された事項の審議を行う専門委員会を設置している。

②附属図書館医学分館運営委員会

附属図書館医学分館運営委員会は分館の運営、分館の諸規程の制定・改廃、分館の予算等に関する事項を審議する組織である。

3) 専門委員会

①選書専門委員会

選書専門委員会は蔵書整備、学生用図書の収集、電子ジャーナルの導入、その他の図書館資料の選定収集に関することを掌る。

②貴重資料・地域貢献専門委員会

貴重資料・地域貢献専門委員会は、附属図書館所蔵の貴重資料の保存・公開・展示等及び附属図書館の地域貢献事業に関することを掌る。

③評価専門委員会(平成 18 年～)

自己点検評価報告書の作成及び外部評価の実施体制を整備した。

④電子ジャーナル専門委員会

第1期：平成16年11月～平成18年2月14日	第2期：平成20年 5月～平成21年3月31日
第3期：平成24年 4月～平成24年8月27日	第4期：平成26年12月～

必要な時に設置している。

第二期中期目標期間では、第 3 期に、電子ジャーナルと平成 24 年度新規導入の文献データベース Scopus の経費負担の在り方について「佐賀大学における電子ジャーナル等経費の負担の在り

方についての検討報告書」を作成した。

第4期は、電子ジャーナル経費が増大し、他大学で電子ジャーナル契約規模の縮小の動きが始まる中、「電子ジャーナル及び文献データベース検討専門委員会」として、電子ジャーナル契約規模の在り方等について検討を行っている。平成27年度上半期には結論を出す予定である。

4) 事務組織

【資料】Ⅲ-4-1 附属図書館組織・機構図 ①②③

Ⅲ-4-2 附属図書館職員数

平成15年10月の佐賀医科大学との統合を経て、平成16年4月から資料Ⅲ-4-1 ①のような系の構成となった。これまでの本館に医学部分館の定員が加わり、常勤職員14人、非常勤職員10人、総勢24人となった。

法人化以降、運営費交付金は、毎年1%の効率化係数を課せられており、管理運営経費の抑制及び効率的な大学運営を迫られている。さらに平成18年5月の行政改革推進法により、今後5年間で5%以上の国家公務員の定員減が目標とされ、国立大学法人もこれに準じた人件費削減の取組を行うこととされた。大学図書館においても、人員の削減を前提とした厳しい組織及び業務の見直しを迫られている。このような状況を鑑み、平成18年7月に事務組織再編を行った(資料Ⅲ-4-1 ②)。

目的は、人員削減の情勢の中で、専門職集団としての図書職員を確保することにある。図書館の中核的業務を遂行し、また、図書館運営・サービス提供能力の空洞化を招かないためには、図書職員を一定数確保し、さらに将来にわたって養成してゆく体制が必要である。また、大学統合時からの事務組織を見直し、医学情報管理係を廃止し、所掌する事務を本館の各担当部署へ再編した。

さらに業務のアウトソーシング化の検討を開始し、平成18年7月から館内に常駐して行う業務のうち、閲覧部門のカウンター業務に、派遣職員を充当した。結果、19年度末時点の職員数は23人(常勤職員12人、非常勤職員8人、派遣職員3人)となった。

平成19年度には、「事務員(学術コンテンツ系)の司書(学術コンテンツ系)への振替え」の要求が役員会(平成20年2月13日開催)において了承されたことにより、図書館職員の専門職化が全学的に認識された。

平成20年度には、佐賀労働局からの指導で、同一派遣職員の長期間勤務が問題とされ、検討の結果派遣職員3名を21年度から直接雇用(パート30時間/週)に改めることになった。

平成24年度には、平成18年7月の事務組織再編による人員配置のひずみの是正について検討を行い、管理系からサービス系への人員増が望ましいという結論を得、平成25年度に人員配置の変更を行った。

5) 事務処理の効率化

平成17年度から研究用資料の購入依頼受付をWebベースのシステムで行い図書館システムにデータとして取り込むようにし、購入依頼受付から発注処理、発注状況の管理等を合理化した。また、研究用資料の購入依頼時に必要となる財源の管理を、財務会計システムと図書館システムを連携させることにより効率化した。

また、平成19年度から学科推薦図書等一時期に大量発注する資料は、目録データ入力と図書IDラベル貼り付けなどを済ませた状態で納品させて、図書館での整理業務の効率化と整理期間の迅速化を実現した。平成25年度から紀要雑誌について、本文が機関リポジトリ及びCiNiiで公開されているものは保存しないこととし、書架の狭隘化への対応及び業務の削減を図った。

6) 職員研修

【資料】Ⅲ-4-3 職員研修状況

平成 16 年度の法人化以降も、全国規模の図書館職員研修は引き続き開催されており、計画的に職員を派遣している。また、従来常勤職員のみを対象としていたが、法人化後は、非常勤職員にも機会を与え、積極的に研修を受けるよう計らっている。

また、新規採用職員については大学での研修が行われているが、平成 21 年以降、図書館独自でも新規採用職員研修を行っている。平成 24 年度も職員 1 名（及び非常勤職員 1 名）に対して実施した。

(2) 財務

1) 予算

【資料】Ⅲ-4-4 図書館経費 Ⅲ-4-5 図書館資料費

法人化後は予算配分方法が大きく様変わりした。学内配分では、一般運営経費が前年度比 20% の減の方針が決定されたが、図書館は学内共通利用施設扱いとされ 9% 減で配分が行われた。これには医学分館の経費が含まれている。その後も、毎年 1% の予算減が行われており、業務効率化による人件費削減、資料購入時の契約方法の見直しによる値引き率の拡大、事務用品、光熱水量費等の節約など、学生用図書購入等に必要な資料費への影響を抑える努力をしている。

平成 26 年度の配当額は、一般運営経費 81,105 千円、学長経費(電子ジャーナル経費)50,000 千円であった。電子ジャーナル購入経費は、学長経費のうちの「中期計画実行経費」から必要な額を確保するという学内合意に基づくものであり、このことを含む予算編成方針は平成 18 年 1 月に開催された第 9 回教育研究評議会において承認された。しかし、平成 22 年度から学長経費の上限が 50,000 千円と定められ、不足分は間接経費から補填されることとなった。26 年度の電子ジャーナルの間接経費補填額は 25,000 千円であった。

本館

平成 26 年度の当初配分は、57,626 千円である。この中から図書館維持費として 37,247 千円、図書購入費として 20,379 千円を充てた。

医学分館

平成 26 年度の当初配分額は、23,479 千円である。この中から図書館維持費として 16,178 千円、図書購入費として 7,301 千円を充てた。

なお、医学分館は、法人化時の合意に基づき医学部及び附属病院からも別途図書購入費の配分を受けている。

2) 決算

【資料】Ⅲ-4-5 図書館経費 Ⅲ-4-6 図書館資料費

本館

図書館維持費のうち非常勤職員の人件費が 4 割程度を占め、不足する常勤職員の補助として非常勤職員に助けられている実情が反映されている。これが全体経費の運用に支障をきたしているが、時間外開館延長の要望もあることからこの状況は簡単には解決できない問題である。また、

光熱水量費は、若干増額となった。今後も節水・省エネルギーへの協力を利用者へ呼びかける努力を継続していくこととしている。なお、空調機については環境省が制定したエコアクション 21 に関連し、省エネルギーな機種への更新が行なわれた。

保守費は、空調機、エレベータ、各種設備の維持経費、さらに建物・設備の老朽化で今後は増加が見込まれる。

医学分館

図書館維持経費のうち平成 18 年度以降、組織再編に伴う非常勤職員の異動等により人件費増が続いている。

光熱水量費等については、平成 20 年度からの鍋島キャンパス冷暖房細則の施行により空調機の運転時間を制限しているため減少していたが、平成 22 年度から土・日曜日に加え祝日も開館したこと、夏場における冷房運転を 17 時までから 21 時までに延長したことにより図書館維持費が増加している。

また、施設設備の修理に経費を要するようになってきており、今後の経費確保が課題である。

(3) 課題及び評価

1) 課題

・組織の編成・管理運営

職員数は定員内も定員外も同規模大学の平均より少ない。大学が定員削減を進めていることから、現有数の維持すら極めて困難である。また、主任クラスとして中核となるべき若手職員がいない等の年齢構成上の問題がある。職員の育成と、新たなサービスや定常的に実施すべき業務に対応するための人員の適正配置が課題である。

事務処理の合理化をさらに推し進め、業務委託については、他大学等の状況調査を踏まえ今後検討する必要がある。

研修については、「大学図書館職員長期研修」以外の、大学院教育や長期海外派遣等の長期間にわたる研修へ派遣できておらず、また、県内図書館との交流の意味も含めた相互研修等も今後の課題である。

・財務

大学全体の予算減の中で、サービス水準維持と経費節減を如何に両立してゆくか、常に取り組みが問われる。今後は、施設の老朽化等で補修経費の増も予想される。

予算が毎年削減されつつある状況の中で、図書館維持費の節減に努めてはいるが、図書購入費の減額が避けられなくなり、平成 24 年度から図書館維持費と同率で予算減を行っている。予算の効果的な使用とともに、評価反映特別経費等の特別予算の確保が必要である。

電子ジャーナルと文献データベース経費の確保については、一層の学内的な働きかけが必要である。

2) 評価

・組織の編成・管理運営

運営委員会や専門委員会が整備され、各専門委員会がそれぞれの所掌ごとに機能しており、管理運営の体制として良好と判断できる。また、少ない職員数を補い業務効率の向上を図るために、組織再編を実施している。

研修については、専門職としての研修を始め、新人研修、接遇、会計等の基礎的研修等を計画的に実施している。

・財務

人件費を除く図書館維持費の中で、最も支出が多いのが電気料金である。電気料金を抑制するために扇風機を購入し、夏場の空調を扇風機を併用して抑制していることは評価できる。

5 施設・設備

(1) 施設、設備等の整備状況

1) 建物

【資料】 Ⅲ-5-1 面積・閲覧座席数・書架収容力、Ⅲ-5-2 図書館利用者用端末台数 Ⅲ-5-3 アクティブ・ラーニング・スペース

図書館総面積は本館 5,332 m²、旧館 780 m²、医学分館 1,769 m² 合計 7,881 m²である。

閲覧座席数は本館 604 席、医学分館 168 席、合計 769 席である。本館（平成元年 3 月竣工）、医学分館（昭和 55 年 3 月竣工）とも竣工後建物本体及び設備は増築、大規模改修は行っていない。

学習支援環境として、本館には、閲覧スペース、書架スペース、グループ学習室 5 室、閲覧個室 4 室、マルチメディアコーナーを整備しており、無線 LAN が利用可能である。グループ学習室 1～3 には、ホワイトボード、プロジェクタを設備しており、グループ学習室 4 にはホワイトボード及び大型テレビ、ビデオ・DVD・CD 等の視聴機器を設備している。グループ学習室 5 は、可動式机椅子とホワイトボードを設備しアクティブ・ラーニング形式の授業での利用も可能としている。マルチメディアコーナーには、地上波放送、衛星放送、ビデオ・DVD・CD 等の視聴機器を設備している。これらの機器は平成 21 年度に更新を行った。

平成 24 年度には、老朽化したイス約 100 脚を新しいものに入れ替えた。アクティブ・ラーニング手法を取り入れた「インターフェース科目」の本格開講前の平成 25 年度末に、本館は自習室に可動式の机と椅子を整備してラーニング・コモンズに一部リニューアルすることにより座席数を 20 席増やした。平成 27 年 3 月には、ラーニング・コモンズのパソコンを移動し、可動式の机と椅子を追加整備し、座席数を 40 席から 70 席に増やした。

一方、医学分館には、書架スペース、閲覧スペース、ビデオ・スライド室 2 室(計 14 席)、LL 室(5 席)を整備している。この、ビデオ・スライド室(1)には、グループでの学習・研究に利用可能なプロジェクターとスクリーンを設備している。また、平成 25 年度末に、1 階の新聞雑誌室に可動式の机と椅子を 12 席揃え、ラーニング・コモンズとして活用できるようにした。

利用者用としてインターネットが利用できるパソコンを本館に 75 台、医学分館に 62 台設置している。また、両館とも設備・備品として、入退館システム、図書自動貸出返却装置、全館冷暖房設備、エレベータ、防犯カメラを備えている。

本館、医学分館ともに基本設計で書架スペース以外の閲覧スペースを利用しやすく、明るい場所に置くなど配慮がなされている。

利用者に対しては、快適な環境を提供することを念頭に、夏季の冷房、冬季の暖房運転の維持と設備、物品の充実を行っている。平成 21 年度は照明環境の向上のため照明機器の更新を行った。この他、全館を徹底した清掃を行い、常に快適な学習環境を提供することに努めている。学習環境としては学内部局の中で比較的良好な状態である。

バリアフリー面では、本館・医学分館ともに車椅子対応ためのスロープ及びトイレを設置している。本館のトイレは平成 24 年度に改修を行った。エレベータについては、本館ではマルチビームドアセンサーの設置、医学分館でもマルチビームドアセンサーの設置と障害者対応への改修を行った。また、日本語に不慣れな利用者のために、平成 20、21 年度に館内サインを全面的に見直し、日本語と英語の表記に改め、一部にはピクトサインを採用した。

2) 書架・書庫

【資料】Ⅲ-5-1 面積・閲覧座席数・書架収容力

本館・医学分館ともに全館開架方式を採用し、書架に隣接して閲覧席やグループ学習室を設置し、知的な交流と創造ができるような環境設備に努めている。本館は平成元年の竣工以降、増築や大幅な書架の増設を行ってこなかったが、平成 23 年度に 2 階の書庫を集密書架へ改修して 2 階書庫の収容力を約 7 万冊に倍増させた。

医学分館は看護学科増設に対応した増築などは行っておらず、2 階の集密書架にいたっては耐震機能も備えていなかったが、平成 23 年度に耐震機能を施すことができた。

本館、分館ともに収容力の不足は深刻である。本館では、毎年の図書増加分に伴い図書を箱詰めにして積み上げており、教育・研究を支援する上でかなり支障をきたしている。利用度の下がった図書を除籍して書架不足を凌いでいる。

(2) 施設、設備等の利用状況

【資料】Ⅲ-5-4 各室使用状況（本館）、Ⅲ-5-5 会議室利用状況（本館）

1) 利用者用施設・設備

本館

平成 17 年度以降横ばい傾向にあったグループ学習室の利用が平成 21 年度に増加に転じ、平成 22 年度以降毎年前年度より増加していたが、平成 26 年度は減少した。一方、平成 25 年度末に整備したラーニング・コモンズはパソコンコーナーを併設していたとはいえ、平成 26 年度に入館者の 1/3 が入室・利用している。

医学分館

医学分館には、ビデオ・スライド室 2 室、LL 室 5 ブースを設置し、利用者に提供している。試験期間は予約で一杯である。

2) その他の施設・設備

・会議室（本館 4 階）

本館の会議室は、本庄キャンパスのほぼ中心に位置し、収容人数が 60 人で使いやすい大きさなので、学内の各種委員会等によく利用されている。平成 20 年度からは佐賀大学経済学部が開講する公開講座「みんなの大学」が 1 年間通じて利用しており、利用がさらに増加した。利用環境の向上のため、平成 24 年度に老朽化した机・イスを新しいものに入れ替えた。

(3) 課題及び評価

1) 課題

・施設、設備等の整備状況

平成 24 年度に医学分館のエレベータは車椅子対応となったが、本館・医学分館ともに誘導用ブロックや音声案内等が未整備で視覚障害者の利用に配慮されていない。バリアフリー化の促進は、図書館単独で実施するのではなく、大学として統一的に検討・実現すべき課題であるが、学内周知に努力し、バリアフリー化の促進に取り組む必要がある。

また、本館、医学分館ともに竣工以来一度も増築を行っていないため、書庫の狭隘化は深刻な状況にある。そのうえ、今後教員の退職にともなう返却図書が多くあると見込まれ、狭隘化の解決は喫緊の課題である。引き続き書庫増設の経費要求とともに、印刷媒体資料等の電子媒体への変更や資料の廃棄を進め、狭隘の緩和を行う必要がある。

・施設、設備等の利用状況

毎年増加し続けていたグループ学習室の利用が平成 26 年度は前年に比べ減少した。ラーニング・コモンズ整備の影響と思われるが、調査の必要がある。

2) 評価

・施設、設備等の整備状況

図書館の総面積、座席数が全国と同規模大学平均を下回ってはいるが、本館・医学分館ともに施設設備の老朽化が進む中で、快適な学習環境を提供することに努め、端末機器も同規模大学平均より多く配備し、比較的良好な環境を維持している。また、防犯カメラの整備及び運用規程を策定しており、施設・設備の整備を実施していると判断できる。平成 23 年度の書庫の集密書架への改修は箱詰め状態の資料の一部を書架に配架でき、利用者の利便性を向上させたことは間違いない。

平成 24 年度に本館・医学分館で行ったエレベータの障害者対応や本館の障害者用トイレの障害者対応は評価できる。

平成 25 年度にアクティブ・ラーニング手法を取り入れた「インターフェース科目」の本格開講前にラーニング・コモンズを整備したことは評価できる。

・施設、設備等の利用状況

会話型のグループ学習が可能な空間として、グループ学習室に加えて整備したラーニング・コモンズは、平成 26 年度に入館者の 1/3 が利用している。アクティブ・ラーニングへのシフトという大学教育の変化に対応した学習空間整備の成果と判断できる。

資料

Ⅱ 概要

Ⅱ-1 蔵書数

① 図書

3月31日現在 (単位: 冊)

年度	本館			医学分館			合計
	和	洋	計	和	洋	計	
21	418,670	189,974	608,644	63,387	43,665	107,052	715,696
22	437,132	176,256	613,388	64,653	44,833	109,486	722,874
23	421,215	175,391	596,606	66,427	45,400	111,827	708,433
24	416,024	175,490	591,514	67,245	45,916	113,161	704,675
25	416,543	176,443	592,986	68,917	46,385	115,302	708,288
26	417,698	177,125	594,823	69,706	46,316	116,022	710,845

【参考】所蔵図書冊数 (『平成 26 年度学術情報基盤実態調査結果報告』)

国立大学	大学	和図書(冊)	洋図書(冊)	点字(種)	計	一大学平均(冊)
A (8 学部以上)	19	33,576,287	25,032,643	1,247	58,610,177	3,084,746
B (5~7 学部)	16	10,077,602	4,385,935	268	14,463,805	903,988
C (2~4 学部)	26	11,463,285	6,182,894	7,425	17,653,604	678,985
D (単科大学)	25	7,083,504	2,399,641	2,065	9,485,210	379,408

② 雑誌

3月31日現在 (単位: 冊)

年度	本館			医学分館			合計
	和	洋	計	和	洋	計	
21	6,479	2,961	9,440	1,021	996	2,017	11,457
22	6,489	2,964	9,453	1,223	1,111	2,334	11,787
23	6,514	2,968	9,482	1,224	1,116	2,340	11,822
24	6,519	2,971	9,490	1,227	1,117	2,344	11,834
25	6,522	2,972	9,494	1,233	1,117	2,350	11,844
26	6,531	2,974	9,505	1,243	1,110	2,353	11,858

【参考】所蔵雑誌種類数 (『平成 26 年度学術情報基盤実態調査結果報告』)

国立大学	大学	和雑誌(種)	洋雑誌(種)	点字(種)	計	一大学平均(種)
A (8 学部以上)	19	613,807	463,853	0	1,077,660	56,719
B (5~7 学部)	16	203,808	92,547	0	296,355	18,522
C (2~4 学部)	26	192,234	104,647	4	296,885	11,419
D (単科大学)	25	125,347	43,933	2	169,282	6,771

② 視聴覚資料

3月31日現在(単位：タイトル)

年度	本館	医学分館	計
21	1,550	1,872	3,422
22	1,557	1,910	3,467
23	1,715	2,007	3,722
24	1,529	1,711	3,240
25	1,787	1,713	3,500
26	1,788	1,748	3,536

【参考】視聴覚資料所蔵数 (『平成 26 年度学術情報基盤実態調査結果報告』)

国立大学	大学数	全所蔵数 (タイトル)	1 大学平均(タイトル)
A (8 学部以上)	19	496,499	26,232
B (5～7 学部)	16	95,170	5,948
C (2～4 学部)	26	184,932	7,113
D (単科大学)	25	100,379	4,015

Ⅱ-2 図書受入冊数

単位：冊

年度	本館	医学分館	計
21	15,531	2,169	17,700
22	17,433	2,306	19,739
23	17,284	2,341	19,625
24	14,400	2,469	16,869
25	14,897	2,246	17,143
26	14,178	2,273	16,451

Ⅱ-3 雑誌受入種類数

単位：種

年度	本館	医学分館	計
21	3,741	700	4,441
22	3,718	689	4,407
23	3,715	690	4,405
24	3,663	694	4,357
25	3,336	475	3,811
26	3,234	487	3,721

Ⅲ 領域別評価

1 教育支援

Ⅲ-1-1 利用対象者数 単位：人

年度	学生	教職員	計
21	7,533	2,302	9,835
22	7,546	2,206	9,752
23	7,317	1,926	9,243
24	7,237	1,965	9,202
25	7,118	2,633	9,751
26			

(出典) 図書館調査 (日本図書館協会)

Ⅲ-1-2 図書除籍冊数 単位：冊

年度	本館	医学分館	計
21	1,069	853	1,922
22	2,605	957	3,562
23	23,543	0	23,543
24	10,212	1,154	11,366
25	5,636	0	5,636
26	4,159	1,417	5,576

Ⅲ-1-3 開館時間

①本館

学 期	曜 日	開館時間	備 考
授業期 (試験 期間含 む)	月～金曜日	8：30～21：10	(休館日) 2月、3月、8月の第4木曜 日(祝日の場合は開館する) 夏季一斉休業日 年末・年始
	土曜日	10：00～19：00	
	日曜日・祝日	10：00～19：00	
休業期 (授業 期以 外)	月～金曜日	8：30～20：10	
	土曜日	10：00～19：00	
	日曜日・祝日	10：00～19：00	

(注) 平成 24 年度から利用規程を改正し、授業期・休業期平日の開館時間を 8 時 40 分から 8 時 30 分へ変更し、閉館時間は、授業期を 20 時 00 分から 21 時 10 分へ、休業期を 20 時 00 分から 20 時 10 分へ延長した。さらに月 1 回の定例休館日を廃止し、2 月、3 月、8 月の第 4 木曜日(祝日の場合は開館する)を休館することとした。

②医学分館

学期	曜日	有人開館	無人開館	備考
授業期	月～木曜日	8:40～21:00	21:00～翌日 8:40	* 休館日の前日は、有人開館終了後、無人開館はしない。
	金曜日	8:40～21:00	21:00～翌日 10:30	
	土・日曜日	10:30～18:30	閉館	
各季休業期	月～木曜日	8:40～17:15	17:15～翌日 8:40	* 各季休業期の土・日曜日、および年末年始は休館日。
	金曜日	8:40～17:15	閉館(注)	
	土・日曜日	閉館	閉館(注)	

(注) 医学分館も平成24年度から利用規程を改正し平日の開館時間を8時40分から8時30分へ変更した。また、医学部では、夏季休業期の8・9月に学生の授業が行なわれる場合があり、当該期間は、金曜日の無人開館及び土・日曜日開館を実施している。

(注) 平成26年3月17日より無人開館は無期限停止中。

Ⅲ-1-4 年間開館日数等

①本館

年度	開館日数(日)				開館時間数(時間)		
	平日	土曜	休日	計	時館内	時間外	計
21	222	45	60	327	1,776	1,616	3,392
22	229	48	63	340	1,892	1,703	3,595
23	238	49	61	348	2,023	1,904	3,927
24	234	49	60	343	1,989	1,887	3,876
25	234	49	61	344	1,989	1,896	3,885
26	235	47	62	344	1,997	1,896	3,893

②医学分館

年度	開館日数(日)				開館時間数(時間)		
	平日	土曜	休日	計	時館内	時間外	計
21	241	46	43	330	1,904	4,453	6,357
22	242	47	61	350	2,048	4,624	6,672
23	243	47	58	348	2,037	4,535	6,572
24	241	46	60	347	2,019	4,513	6,532
25	241	45	57	343	2,008	4,470	6,478
26	244	45	56	345	2,074	1,784	3,858

(注) H25までは、医学分館の時間外開館時間は夜間の無人開館時間を含むが、H26より無人開館は廃止されたので平日の夜間は21時で閉館している。

【参考】年間開館日数等（一館平均）（『平成26年度学術情報基盤実態調査結果報告』）

国立大学	開館日数 (日)	平日の時間外開館 (時間)	土曜開館 (日)	休日開館 (日)
A (8学部以上)	286	1,638	42	53
B (5～7学部)	319	1,753	41	48
C (2～4学部)	302	1,345	39	42
D (単科大学)	314	1,368	39	48

Ⅲ-1-5 入館者数

①本館

年 度	開館日数(日)	時間内(人)	時間外(人)	合 計(人)	1日平均(人)
21	327	227,069	96,614	323,683	990
22	340	206,179	97,786	303,965	894
23	348	218,967	101,558	320,525	921
24	343	201,475	96,056	297,531	867
25	344	201,282	102,784	304,066	884
26	344	193,879	102,248	296,127	861

②医学分館

年 度	開館日数(日)	時間内(人)	時間外(人)	合 計(人)	1日平均(人)
21	330	106,195	77,778	183,973	557
22	350	105,610	90,527	196,137	560
23	348	108,725	91,923	200,648	577
24	347	112,351	101,245	213,596	616
25	343	118,477	100,768	209,245	639
26	345	109,863	59,860	169,723	441

Ⅲ-1-6 貸出条件

①本館

種 類		対 象	期 間	冊 数
個人貸出	学内利用者	学部学生	2週間（雑誌は1週間）	図書(雑誌を含む)10冊
		大学院生	4週間（雑誌は1週間）	
		研究生・科目等履修生等	2週間（雑誌は1週間）	
		教職員・名誉教授	4週間（雑誌は1週間）	
		非常勤講師	4週間（雑誌は1週間）	
	学外利用者	2週間（雑誌は1週間）	図書(雑誌を含む)5冊	
研究室貸出		教員	1年間	当該予算で購入したもので必要とする冊数
特別貸出	休業期	学内利用者	休業期間終了日の1週間後まで	個人貸出と同条件
	卒論等	学部学生・大学院生	2週間	図書5冊
	実習	学部学生	実習期間内	図書5冊

②医学分館

種 類		対 象	期 間	冊 数
個人貸出	学内利用者	学生・教職員等	2週間	図書 5冊
			3日	小池文庫 3冊
			3日	雑誌 3冊
			3日	視聴覚資料 3点
	学外利用者	2週間	図書 3冊 (一般教育関係図書に限る)	
研究室貸出		教職員	1年間	当該予算で購入したもので必要とする冊数
特別貸出	休業期	学生等	休業期間終了日の翌日まで	図書 5冊

Ⅲ-1-7 館外貸出状況

①本館

年度	貸出者数(人)				貸出冊数(冊)			
	学生	教職員	一般	計	学生	教職員	一般	計
21	12,444	1,014	350	13,808	20,111	1,938	798	22,847
22	15,391	1,232	465	17,088	25,325	2,246	1,187	28,758
23	19,246	1,634	603	21,483	32,535	3,040	1,328	36,903
24	20,601	1,754	622	22,977	34,571	3,127	1,352	39,050
25	23,094	1,567	718	25,379	39,257	2,893	1,693	43,843
26	20,145	1,364	678	22,187	36,996	3,022	1,880	41,898

②医学分館

年度	貸出者数(人)				貸出冊数(冊)			
	学生	教職員	一般	計	学生	教職員	一般	計
21	6,851	1,370	9	8,230	10,134	2,450	17	12,601
22	7,269	1,742	18	9,029	10,916	3,002	45	13,963
23	7,640	1,673	25	9,338	11,611	2,936	44	14,591
24	7,342	1,433	26	8,801	11,525	2,340	42	13,907
25	7,271	1,045	19	8,335	11,415	1,794	34	13,243
26	7,633	1,176	28	8,837	10,690	2,920	49	13,659

【参考】館外貸出冊数（一館平均）（『平成 26 年度学術情報基盤実態調査結果報告』） 単位：冊

国立大学	教職員	学 生	学外者	計
A (8 学部以上)	3,257	21,956	751	25,964
B (5～7 学部)	2,358	22,937	1,288	26,583
C (2～4 学部)	3,521	26,415	960	30,895
D (単科大学)	3,575	24,165	1,556	29,296

Ⅲ-1-8 オリエンテーション実績（本館）

年度	初級コース		中級コース	
	回数(回)	人数(人)	回数(回)	人数(人)
21	30	972	11	177
22	27	988	11	215
23	34	983	9	213
24	29	914	8	190
25	31	934	12	241
26	31	860	10	191

Ⅲ-1-9 図書館間相互貸借冊数

単位：冊

年度	本館		医学分館	
	借受	貸出	借受	貸出
21	360	238	58	49
22	291	170	84	83
23	429	180	120	82
24	278	219	46	86
25	293	210	62	88
26	255	143	50	54

Ⅲ-1-10 図書館間の文献複写件数

単位：件

年度	本館		医学分館	
	依頼	受付	依頼	受付
21	1,630	630	2,476	1,807
22	1,772	559	2,232	1,598
23	1,625	624	1,888	1,929
24	1,242	549	1,516	1,783
25	965	352	1,381	1,734
26	1,078	331	1,519	1,435

【参考】相互協力件数（一館平均）

（『平成26年度学術情報基盤実態調査結果報告』）

国立大学	相互貸借		文献複写	
	借受	貸出	依頼	受付
A（8学部以上）	201	189	734	1,123
B（5～7学部）	210	198	1,324	1,116
C（2～4学部）	214	194	1,097	1,251
D（単科大学）	151	191	1,186	1,017

Ⅲ-1-11 図書館ポータル

—サービス名およびアクセス数（平成 26 年度*）—

単位：回

サービス名	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
図書館ポータルログイン	17,493	19,590	20,146
ILL 依頼	4,549	4,587	45,102
貸出予約状況照会	5,168	7,069	6,480
施設予約カレンダー	4,858	5,819	4,008
施設予約	4,285	5,477	4,398
雑誌一覧	828	756	892
OPAC 読書傾向	1,518	1,215	1,009
お薦めの本	673	574	542
貸出履歴一覧	1,298	1,457	1,091
新着図書一覧	1,416	1,192	1,015
貸出ランキングポータル	466	436	398
ブックレビュー	439	395	323
新着雑誌一覧	315	244	208
図書購入依頼	488	775	728
ASK	144	272	187
FAQ	153	159	173
モバイルログイン	45	25	15

*平成 26 年度は、システム更新のため 2 月までの集計

Ⅲ-1-12 図書館Web ページのアクセス数

年度	アクセス数（回）	デバイス別アクセス割合（%）	
		PC	mobile, tablet
24	114,927	92	8
25	121,141	83	17
26	118,974	76	24

2 研究支援

Ⅲ-2-1 電子ジャーナル導入状況

① 購入パッケージ

年 度	Elsevier Science Direct	Springer LINK	Wiley	Nature	LWW
21	○	○	○	○	○
22	○	○	○	○	○
23	○	○	○	○	○
24	○	○	○	○	○
25	○	○	○	○	○
26	○	○	○	○	○

②種類数

年度	種類数(種)
21	5,537
22	5,459
23	5,523
24	11,663
25	11,642
26	11,884

【参考】所蔵電子ジャーナル種類数（『平成 26 年度学術情報基盤実態調査結果報告』）

国立大学	大学数	電子ジャーナル(種)	一大学平均(種)
A (8 学部以上)	19	411,049	21,634
B (5～7 学部)	16	160,482	10,030
C (2～4 学部)	26	203,109	7,812
D (単科大学)	25	161,507	6,460

Ⅲ-2-2 電子ジャーナル経費

年度	経費(千円)
21	73,241
22	71,155
23	74,020
24	95,014
25	97,586
26	108,823

Ⅲ-2-3 電子ジャーナルアクセス数

	Elsevier Science Direct	Springer LINK	Wiley	Nature	LWW	合計
21	97,458	16,884	15,506	8,155	4,636	142,639
22	105,838	16,822	20,623	8,109	4,750	156,142
23	109,067	20,850	28,412	7,130	4,675	170,134
24	105,719	19,695	26,900	4,799	4,680	161,793
25	91,206	19,398	26,003	3,903	4,925	145,435
26	94,272	16,867	28,560	2,994	5,891	148,584

Ⅲ-2-4 電子書籍導入状況

①購入パッケージ

年 度	EBSCOhost Ebook collection	Maruzen e-book Library	Books@Ovid	Springer eBook Collection	ScienceDirect レファレスワーク	Wiley Online Library
24	○	○	○	○	○	○
25	○	○	○	○	○	○
26	○	○			○	○

②種類数

単位：タイトル

年度	国内	国外	計
24	765	17,251	18,016
25	888	17,268	18,156
26	1,093	17,272	18,365

【参考】所蔵電子書籍種類数（『平成26年度学術情報基盤実態調査結果報告』） 単位：タイトル

国立大学	大学数	国内	国外	計	一大学平均		
					国内	国外	計
A（8学部以上）	19	10,049	364,394	374,443	529	19,179	19,708
B（5～7学部）	16	4,605	202,781	207,386	288	12,674	12,962
C（2～4学部）	26	6,887	261,629	268,516	265	10,063	10,328
D（単科大学）	25	4,405	67,932	72,337	176	2,717	2,893

Ⅲ-2-5 電子書籍経費

年度	経費(千円)
24	3,300
25	3,505
26	3,924

Ⅲ-2-6 電子書籍アクセス数

単位：件

年 度	EBSCOhost Ebook collection	Maruzen e-book Library	Books@Ovid	Springer eBook Collection	ScienceDirect レファレスワーク	Wiley Online Library
24	50	—	26	463	10	73
25	434	370	26	3,458	8	91
26	627	748	114	2,988	13	119

Ⅲ-2-7 文献等データベースサービス

データベース名及び利用件数(平成 26 年度)

国内		国外	
名称	利用数(件)	名称	利用数(件)
聞蔵 2 ビジュアル	616	SciFinder Academic	5,329
ヨミダス歴史館	877	Scopus	33,671
日経テレコン 21	312,650	JCR	1,794
BookPlus	25	Ovid	3,480
ジャパンナレッジ・プラス N	824	CINAHL	362
医中誌 Web	65,725	Clinical Evidence	114
CiNii *	83,492	UpToDate	3,596
日経 BP 記事検索サービス*	7,507	Academic Search Premier *	2,811
メディカルオンライン*	22004		

日経テレコン 21 及び日経 BP 記事索引は本文記事等閲覧件数

* 本文では電子ジャーナル種として集計しているもの

Ⅲ-2-8 文献等データベースのトライアル及び説明会開催状況

年度	トライアル	説明会
21	BookPlus、聞蔵 2、ヨミダス歴史館 ジャパンナレッジ、Stat!Ref	Scifinder Academic、BookPlus、 聞蔵 2、ヨミダス歴史館、ジャパンナレッジ
22	Scopus	Scopus、Scifinder Academic
23	Scopus、メディカルオンライン	Scifinder Academic
24	西日本新聞	Scopus オンライン講習会 EBSCO host オンライン講習会 Scifinder Academic
25	ebrary	Science Direct オンライン講習会 Scopus オンライン講習会 EBSCO host オンライン講習会 Scifinder Academic
26	ICM(世界助産師連盟データベース)	Scopus、SciFinder Academic Scopus オンライン講習会 EBSCO host オンライン講習会

【参考】図書館資料費 (『平成 26 年度学術情報基盤実態調査結果報告』)

(平成 25 年度実績：一大学平均)

単位：千円

国立大学	大学数	図書	雑誌	電子ジャーナル	電子書籍	データベース	その他	計
A (8 学部以上)	19	167,378	119,070	323,596	11,439	50,224	9,975	681,681
B (5~7 学部)	16	33,542	27,750	97,707	1,827	16,500	2,921	180,247
C (2~4 学部)	26	30,757	26,276	62,680	2,678	12,727	1,510	136,628
D (単科大学)	25	14,429	10,000	23,378	1,108	5,978	3,340	55,995

Ⅲ-2-9 佐賀大学機関リポジトリ登録数及び閲覧数(平成 26 年度)

単位：件

コンテンツの種類	登録数		閲覧数	
	一次情報	二次情報	アクセス数	ダウンロード数
紀要論文	2,628	6,764	378,155	314,772
博士論文	235	1,732	112,326	101,913
雑誌論文 他	496	1,919	16,817	10,181
合 計	3,359	10,415	507,298	426,866

【参考】 機関リポジトリコンテンツ数 (『平成 26 年度学術情報基盤実態調査結果報告』)

(平成 24 年度実績：国立大学 B (5～7 学部) 平均)

単位：件

コンテンツの種類	一次情報	二次情報	アクセス数	ダウンロード数
学術雑誌論文	858	1,649		
学位論文	516	598		
紀要論文	3,201	2,438		
会議発表論文	84	193		
会議発表資料	67	53		
図書	79	72		
テクニカルレポート	20	8		
研究報告書	439	236		
一般雑誌記事	28	8		
プレプリント	0	0		
教材	6	10		
講義	0	0		
データ・データベース	3	0		
ソフトウェア	0	0		
その他	177	85		
計	5,473	5,345	372,592	423,092

3 社会貢献

Ⅲ-3-1 一般市民への貸出状況

年 度	本 館		医学分館	
	貸出者数(人)	貸出冊数(冊)	貸出者数(人)	貸出冊数(冊)
21	350	798	9	17
22	465	1,187	18	45
23	603	1,328	25	44
24	622	1,352	26	42
25	718	1,693	19	34
26	678	1,880	28	49

Ⅲ-3-2 図書館月間 講演会

年度	演 題	講 師
21	インフルエンザ：パンデミアの変遷と今日的危機	青木洋介（佐賀大学附属病院診療教授）
	仏教からみたヒトの生き方	五十嵐雄道（浄土真宗円光寺住職）
	こころアレルギー ―人間関係免疫力の低下―	佐藤 武（佐賀大学保健管理センター教授）
	オープンシステムサイエンス ―システム生物学を中心に―	白石哲也（ソニコンピ ュータイェンス研究所）
	ヒポクラテスの誓いからヘルシンキ宣言2008年版まで	小泉俊三（佐賀大学附属病院教授）
	ペシャワール会の活動とアフガン（医療と灌漑水路建設）	福本満治（ペシャワール会事務局長/広報担当理事）
22	シュガーロードと和菓子の現状	村岡由隆（株式会社村岡総本舗 取締役企画室長）
23	現代陶芸の特質（シンプル・シャープ・クリアー・ヴァイタリティ） ―日展女流陶芸家・寺崎康子の場合―	吉永陽三（元佐賀県立博物館・美術館副館長） 寺崎康子（陶芸家「姫の窯」窯元）
	有田・唐津焼と私の作品	田中右紀（佐賀大学文化教育学部准教授）
24	徐福2200年ロマン―徐福の見た夢―	澤野 隆（NPO法人佐賀県徐福会理事長）
	徐福ラボにおける食品機能性に関する研究―佐賀県産品の可能性―	永尾晃治（佐賀大学農学部准教授）
25	ビブリオバトルの勧め ―社会で役立つ“プレゼン能力”を学ぼう―	中山功一（佐賀大学工学系研究科准教授）
26	有田磁器の創始と発展 ―400年の歴史をたどる―	大橋康二（元佐賀県立九州陶磁文化館館長）

Ⅲ-3-3 図書館月間展示会

年度	展示名	展示内容
21	佐賀出身の文学者たち — 中島哀浪・宮地嘉六・下村湖人・三好十郎・戸川幸夫—	図書館所蔵資料の中から、佐賀生まれの文人たちを紹介する図書を展示した。
22	シュガーロードと和菓子の現状	講演会「シュガーロードと和菓子の現状」に合わせ、村岡総本舗より和菓子の原料や写真等を借り受け展示した。
23	(展示会はありませんでした)	
24	徐福2200年ロマン—徐福の見た夢—	講演会「徐福2200年ロマン—徐福の見た夢—」に合わせ、徐福長寿館所蔵の資料・書籍を展示した。
25	ビブリオバトルお奨め本	ビブリオバトル首都決戦の大学予選会での発表本及び図書館開催のミニビブリオバトルのお薦め本などを展示した。
26	有田焼関連図書	講演会「有田磁器の創始と発展 —400年の歴史をたどる—」に合わせて、書籍を展示した。

Ⅲ-3-4 附属図書館所蔵コレクション

	コレクション名	内 容
地域資料コレクション	小城鍋島文庫	佐賀鍋島の支藩、小城の鍋島家に伝えられた貴重な図書・文書で、当主鍋島直浩氏のご厚意と西島製作所原田龍平氏のご配慮により、昭和 35 年に寄贈され、昭和 38 年には小城町教育委員会から小城鍋島家旧蔵漢籍が寄贈されたもので、1 万点を超える国書、漢籍、歴史史料からなる。
	唐津藩庄屋文書	唐津藩の庄屋史料を中心に地方（じかた）文書を含む約 1,000 点の近世中・後期から明治にかけての庄屋史料である。
	深江文書	深江家に伝わる美濃派俳諧の資料で、深江汨央氏より平成 5 年に寄贈されたものであり、江戸中期から明治初期に佐賀で編まれた 49 点の俳書である。
	江藤新平関係文書	明治維新の政治家、江藤新平に関する資料をマイクロフィルム化したもので、佐賀県立図書館に所蔵されている 1,400 点余の資料と、江藤家に秘蔵されていた未公開資料 130 点を含んでいる。明治初期の政治・法制成立課程の研究や江藤研究の貴重な資料である。
	佐賀地方裁判所資料	佐賀地方裁判所より、平成 11 年に寄贈を受けたもので、明治初期から昭和初期に至るまでの裁判制度に関する資料であり、佐賀地方に限定されているとはいえ、明治初期から昭和初期までの地方における裁判の全体像を知ることができる貴重な資料である。
	市場直次郎コレクション	佐賀や北九州の近世文学・民俗学研究で知られた故市場直次郎氏が蒐集した、扇面・色紙・和書・掛軸等 1,900 点余のコレクションを 3 期にわたって購入した。コレクション中、近世の文人が描いた書画の扇面は 502 点にも及び、全国でも他に例がないものである。 (第 1 期分のみ文部科学省大型コレクション経費 平成 13 年度採択)
	洋学資料コレクション	我が国洋学発達史上、学術的価値のある資料である。 「和蘭字彙」、「草木花実写真図」、「西遊旅譚」、「蘭学逕」、「和蘭産物考」、「蘭学階梯」、「和蘭薬鏡」 (岡本基金-教育研究助成奨学寄附金)
	大内文庫	平成 15 年 9 月に亡くなられた、鹿児島大学名誉教授・文学博士、大内初夫氏が収集された俳諧書類で、江戸時代（元禄期）から明治中期にかけての俳諧書 2 9 8 点 4 4 5 冊、俳諧書複製本 2 3 点、軸物 18 点、器財（文台）1 点を内容とする。 (岡本基金-教育研究助成奨学寄附金)
	佐賀新聞DVD	明治 17 年の創刊号から平成 19 年までの記事を図書館内の専用パソコンで見ることができ、日付検索の機能を持ち、紙面全体や個別の記事を表示、印刷

		することができる。 (学長経費—予備費)
研究 用 コ レ ク シ ョ ン	東寺百合文書	東京大学史料編纂所が京都教王護国寺（通称東寺）旧蔵文書の影写本をマイクロフィルム化したもの。文書には、鎌倉・室町時代の東寺関係諸記録約1,000点を含み、東寺の寺院経営や寺院の荘園に関する寺院経済関係の記録が豊富である。 (文部科学省大型コレクション経費 昭和56年度採択)
	バイルシュタイン 有機化学全書	Beilsteins Handbuch der Organischen Chemie. 炭素化合物の物理的、化学的諸特性に関する百科事典 (文部科学省大型コレクション経費 昭和62年度採択)
	国立国会図書館所蔵 明治期産業翻 訳書集成	明治期のお雇い外国人官僚技術者、知識人の外国事情、学術研究書などの翻訳と報告をマイクロフィルム化したもの。万国博覧会編、農業編、工業編、産業史編に分かれている。 (文部科学省大型コレクション経費 平成元年度採択)
	1990世界農林 業センサス農業集 落カード	農業の国勢調査ともいふべき農林業センサスの調査結果の一つで、農村地域の最小単位である全国約13万4千の農業集落について調査結果を整理統合した資料。 (文部科学省大型コレクション経費 平成元年度採択)

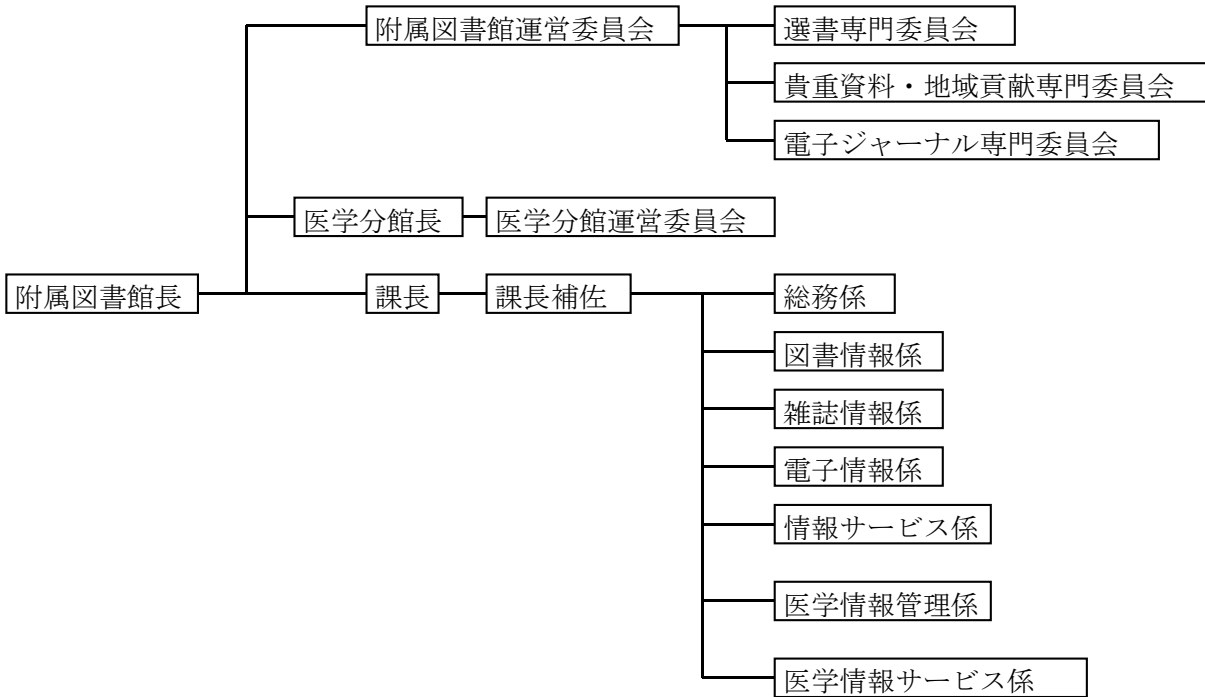
Ⅲ-3-5 貴重資料の利用

年度	展 示 名	展 示 内 容
21	中世小城の歴史・文化と肥前千葉氏	附属図書館所蔵の小城鍋島文庫の中から「系図」「肥陽軍記」
22	小城の教育と地域社会	附属図書館所蔵の小城鍋島文庫の中から「毛詩正文」ほか11点
23	①小城の医学と地域医療 ②幕末期海軍の提督たち - 中牟田倉之助と高杉晋作 ③汽笛一声 鉄道はじまりものがたり ④噴火 地震 台風 病 史料に見る江戸時代の災害・災厄	①附属図書館所蔵の小城鍋島文庫の中から「元茂公御年譜」ほか10点 ②附属図書館所蔵の小城鍋島文庫の中から「上海談聞書」 ③附属図書館所蔵の小城鍋島文庫の中から「遠西奇器述」 ④附属図書館所蔵の小城鍋島文庫の中から「御状方日記」「日記目録」
24	①久米邦武と能楽展 ②書聖・中林梧竹不朽の書	①附属図書館所蔵の小城鍋島文庫の中から「景清」 ②附属図書館所蔵の小城鍋島文庫の中から「東坡居士詩集」
25	①鉄道を夢みた男たち ②小城藩と和歌—直能公自筆『岡花和歌』の里帰り— ③九州の蘭学 武雄の蘭学 ④市民の歴史研究事始め—自由民権カレッジ一期生の成果— ⑤儒家三代～古賀精里・穀堂・洞庵・謹一郎～	①附属図書館所蔵の小城鍋島文庫から「遠西奇器述」 ②附属図書館所蔵の小城鍋島文庫から「八重一重」ほか35点、市場直次郎コレクションから「今泉蟹守和歌」 ③附属図書館所蔵の小城鍋島文庫から「遠西奇器述」 ④附属図書館所蔵の市場直次郎コレクションの画像データから「小池池旭 紅梅図」 ⑤附属図書館所蔵の小城鍋島文庫から「津島日記」
26	①図録「小城城下と牛津宿」出版 ②小城城下と牛津宿—小城藩政の展開と人びとの経済活動 ③実録『火城』伝～幕末佐賀のテクノクラート～ ④医学のあけぼのから先端医療まで	①附属図書館所蔵の小城鍋島文庫から「直能公御年譜6」ほか26点 ②附属図書館所蔵の小城鍋島文庫から「直能公御年譜6」ほか8点 ③附属図書館所蔵の小城鍋島文庫から「遠西奇器述」 ④附属図書館所蔵の小城鍋島文庫から「和漢三才図会」

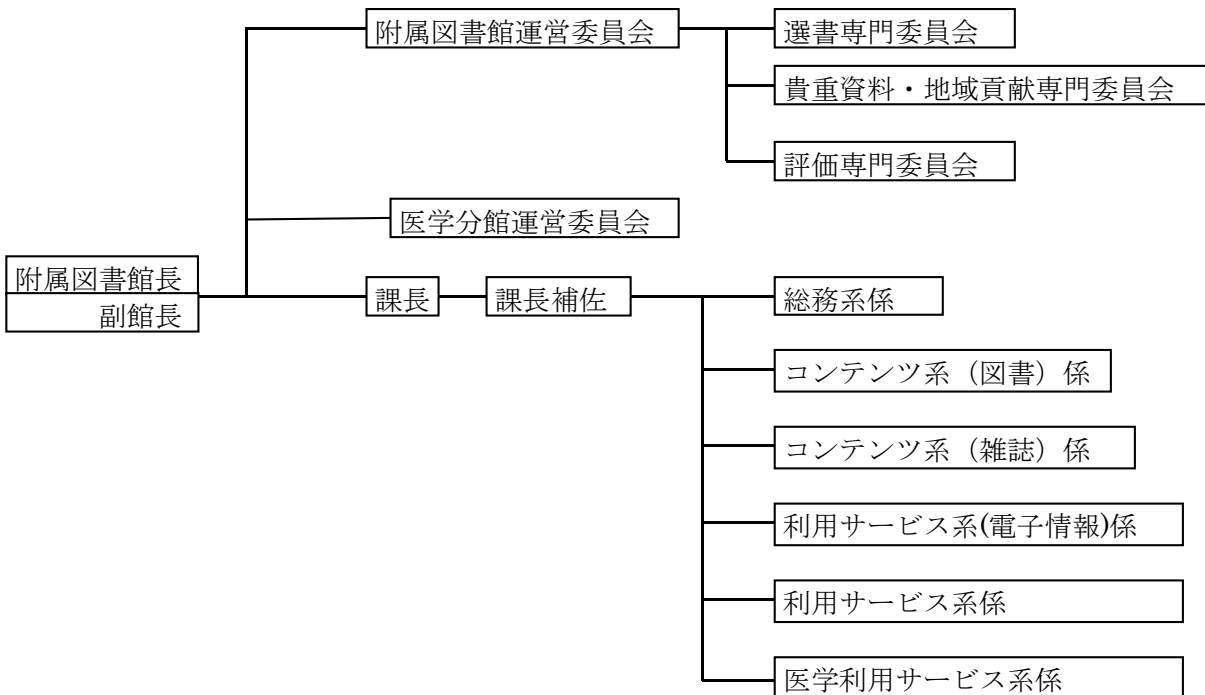
4 組織運営

Ⅲ-4-1 附属図書館組織・機構図

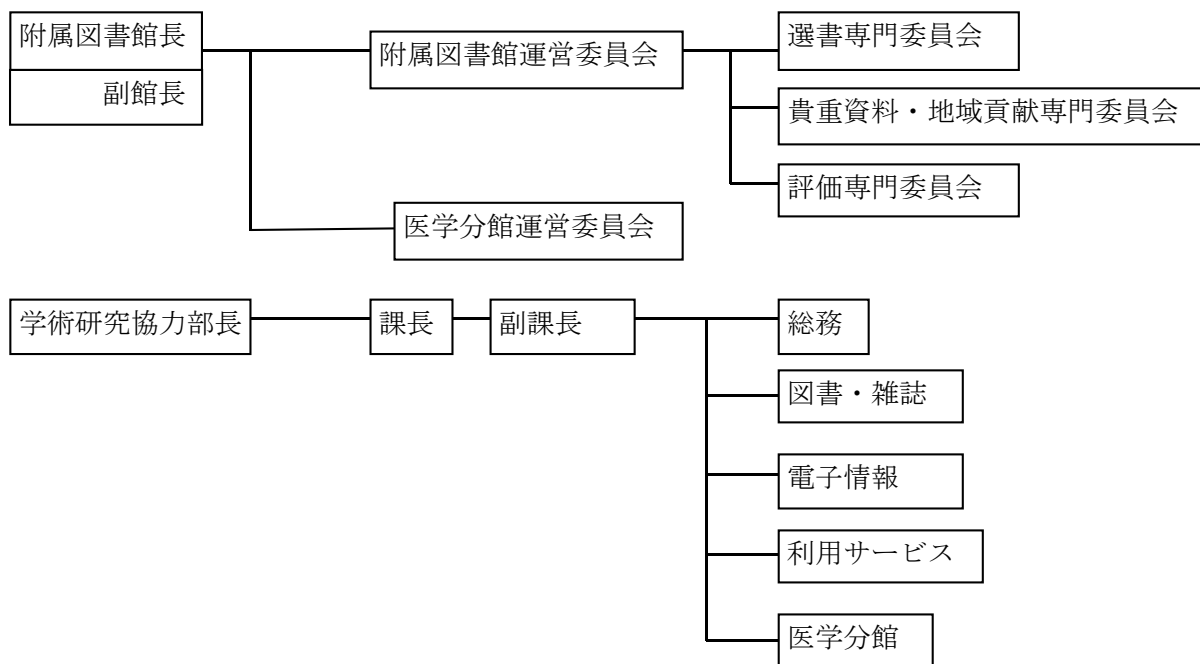
①平成 15 年 10 月～平成 18 年 6 月



②平成 18 年 11 月



③平成 25 年 4 月



Ⅲ-4-2 附属図書館職員数

5月1日現在（単位：人）

年度	本館			医学分館			合計		
	常勤	非常勤	計	常勤	非常勤	計	常勤	非常勤	計
21	10(6)	9(3)	19(9)	2(2)	6(4)	8(6)	12(8)	15(7)	27(15)
22	10(6)	9(3)	19(9)	2(2)	6(4)	8(6)	12(8)	15(7)	27(15)
23	9(5)	9(3)	18(8)	2(2)	6(4)	8(6)	11(7)	15(7)	26(14)
24	10(7)	9(3)	19(10)	2(2)	5(3)	7(5)	12(9)	14(6)	26(15)
25	10(7)	9(3)	19(10)	2(2)	6(4)	8(6)	12(9)	15(7)	27(16)
26	10(7)	10(4)	20(11)	2(2)	5(3)	7(5)	12(9)	15(7)	27(16)

(注) ()書は司書数で内数

【参考】図書館職員数（『平成 26 年度学術情報基盤実態調査結果報告』より）

単位：人

国立大学	大学数	総人数			一大学平均人員		
		専任	臨時	計	専任	臨時	計
A (8学部以上)	19	955	1,058	2,013	50	56	106
B (5～7学部)	16	220	332	552	14	21	35
C (2～4学部)	26	301	417	718	12	16	28
D (単科大学)	25	191	211	402	7	8	16

Ⅲ-4-3 職員研修状況

年 度	研 修 名	場 所	人数(人)
21	平成21年度図書館職員長期研修	つくば市	1
	平成20年度C S I 委託事業報告交流会	東京都	1
	福岡県・佐賀県大学図書館協議会北部地区研究会目録講習会	北九州市	2
	目録システム地域講習会	長崎市	2
	平成21年度九州地区国立大学法人等係長研修	福岡市	1
	持続可能な機関リポジトリのための人材進化構造第3回講習会	福岡市	1
	佐賀県内図書館横断システムに係る操作研修	佐賀市	3
	九州地区医学図書館員セミナー	久留米市	1
	持続可能な機関リポジトリのための人材進化構造第4回講習会	福岡市	1
22	C S I 委託（コンテンツ系）事業報告交流会	東京都	1
	学術情報セミナー	福岡市	2
	I L L システム講習会	福岡市	1
	学術ポータル担当者研修	名古屋市	1
	目録システム講習会（図書コース）	熊本市	2
	著作権セミナー	熊本市	3
	九州地区国立大学法人等テーマ別研修	鹿児島市	1
	九州地区国立学校会計事務研修	鹿児島市	1
	学術情報リテラシー教育担当者研修	東京都	1
	九州地区医学図書館員セミナー	鹿児島市	1
	DRF/Share 地域ワークショップ	福岡市	1
	D R F 技術ワークショップ	熊本市	1
	公文書管理法制セミナー	東京都	1
23	学術情報セミナー	福岡市	4
	I L L システム講習会	福岡市	1
	福岡県・佐賀県大学図書館協議会北部地区研究会目録講習会	北九州市	2
	目録システム講習会（図書コース）	福岡市	1
	機関リポジトリ新任担当者研修	広島市	1
	九州地区国立大学法人等テーマ別研修	宮崎市	2
	中国・四国・九州・沖縄地区大学図書館職員フレッシュパーソンセミナー	福岡市	1
	九州地区医学図書館員セミナー	福岡市	1
	大学図書館職員短期研修	東京都	1
	佐賀大学フォローアップ研修	佐賀市	1
	I L L システム講習会	福岡市	4
24	I L L システム講習会	福岡市	1
	目録システム地域講習会	福岡市	1
	大学図書館職員短期研修	京都市	1
	九州地区国立大学法人等テーマ別研修会	福岡市	2
	機関リポジトリ—新任担当者研修	岡山市	1
	北部地区研究会目録講習会	北九州市	1
	学術情報セミナー	福岡市	4
	エルゼビア 図書館セミナー	福岡市	2
	九州地区医学図書館員セミナー	宮崎市	1

	図書館総合展	横浜市	1
25	学術情報セミナー	福岡市	1
	学術情報ウェブサービス担当者研修	福岡市	1
	Library Lover's キャンペーン ワーキング会議	福岡市	1
	北部地区研究会目録講習会	北九州市	1
	法人等係長研修	福岡市	1
	文化庁著作権講習会	京都市	1
	九州地区国立大学法人等テーマ別研修会	福岡市	2
	国立大学会計事務講習	佐賀市	1
	佐賀大学係長研修	佐賀市	1
	佐賀大学幹部職員(副課長)研修	佐賀市	1
	佐賀大学接遇・マナー研修	佐賀市	2
	佐賀大学中堅職員ステップアップ研修	佐賀市	2
26	目録システム地域講演会(雑誌コース)	山口市	2
	九州地区事務情報化推進要員スキルアップ研修	福岡市	1
	大学図書館職員研修会	福岡市	2
	九州地区医学図書館員セミナー	福岡市	1
	佐賀大学情報化要員養成研修(EXCEL)	佐賀市	4
	佐賀大学係長ステップアップ研修	佐賀市	2
	佐賀大学接遇・苦情クレーム対応研修	佐賀市	5

Ⅲ-4-4 図書館経費

①本館予算

単位：千円

年度	図書費	学長経費 (電子ジャーナル 整備費)	図書館維持費	計
21	18,000	70,750	47,243	135,993
22	29,222	68,177	41,755	139,154
23	27,000	68,339	41,726	137,065
24	25,790	74,726	40,661	141,177
25	20,582	75,000	40,857	136,439
26	20,379	75,000	37,247	132,626

(注1) 平成19年度は電子ジャーナル整備費として学長経費65,000千円プラス3,000千円(一般運営費)を計上した。

(注2) 平成20年度は電子ジャーナル整備費として学長経費67,250千円プラス500千円(一般運営費)を計上した。

(注3) 平成21年度は電子ジャーナル整備費として学長経費70,250千円プラス500千円(一般運営費)を計上した。

(注4) 平成22年度は電子ジャーナル整備費として学長経費50,000千円プラス18,177千円(科研費補助金間接経費及びその他補助金間接経費)を計上した。
図書費として21,000千円プラス8,222千円(その他補助金間接経費)を計上した。

(注5) 平成23年度は電子ジャーナル整備費として学長経費50,000千円プラス18,339千円(科研費補助金間接経費及びその他補助金間接経費)を計上した。
図書費として21,000千円プラス6,000千円(その他補助金間接経費)を計上した。

(注6) 平成24年度は電子ジャーナル整備費として学長経費50,000千円プラス24,726千円(科研費補助金間接経費及びその他補助金間接経費)を計上した。
図書費として20,790千円プラス5,000千円(その他補助金間接経費)を計上した。

(注7) 平成25年度は電子ジャーナル整備費として学長経費50,000千円プラス25,000千円(科研費補助金間接経費及びその他補助金間接経費)を計上した。
図書費として20,582千円を計上した。

(注8) 平成26年度は電子ジャーナル整備費として学長経費50,000千円プラス25,000千円(科研費補助金間接経費及びその他補助金間接経費)を計上した。
図書費として20,379千円を計上した。

②本館決算

単位：千円

事項		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
図書館維持費	人件費	17,419	16,103	16,583	16,903	18,042	18,524
	光熱水費	6,132	5,811	6,404	6,409	6,851	7,126
	保守・役務費	9,221	9,523	10,529	8,142	6,959	8,435
	通信費	361	430	401	399	362	367
	備品・消耗品	13,762	8,548	6,057	7,422	8,683	5,820
小計		46,895	40,415	39,974	39,275	40,897	40,272
図書費		88,241 学長経費 70,242 千円含む	97,399 学長経費 等 68,177 千円含む	95,340 学長経費等 68,340千円 含む	100,709 学長経費等 74,726千円 含む	99,173 学長経費等 78,591千円 含む	106,044 学長経費等 85,665千円 含む
計		135,136	137,814	135,314	139,984	140,070	146,316

(注 1) 平成 17 年度はエレベータ耐震工事 2 基分の費用とし、学長経費で昇降機改修費 1,221 千円の配分を受け工事を実施した。

③医学分館予算

単位：千円

年度	図書館維持費	図書購入費		計
		図書購入費	医学部経費	
20	17,286	5,500	35,046	57,832
21	17,058	5,500	33,002	55,560
22	19,246	7,497	32,111	58,854
23	19,277	6,300	34,151	59,728
24	19,273	6,237	33,743	59,253
25	16,274	7,374	34,041	57,689
26	16,178	7,301	30,168	53,647

*平成 22 年度は、医学分館図書購入費として間接経費 1,197 千円を計上

④医学分館決算

単位：千円

年度	図書館維持費	図書購入費	計
21	17,853	36,821	54,674
22	18,530	39,168	57,698
23	19,026	40,378	59,404
24	19,301	40,277	59,578
25	15,435	42,405	57,840
26	14,398	47,762	62,160

Ⅲ-4-5 図書館資料費 2014 (平成 26) 年度

単位：千円

区分	本館	分館	合計
図書	51,946	10,168	62,114
雑誌	26,101	13,872	39,973
電子ジャーナル	89,143	19,680	108,823
電子書籍	1,245	2,679	3,924
データベース	15,519	264	15,783
その他	263	1,419	1,682
合計	184,217	48,082	232,299

【参考】図書館資料費 (『平成 26 年度学術情報基盤実態調査結果報告』)

(平成 25 年度実績：一大学平均)

単位：千円

国立大学	大学数	図書	雑誌	電子ジャーナル	電子書籍	データベース	その他	計
A (8 学部以上)	19	167,378	119,070	323,596	11,439	50,224	9,975	681,681
B (5~7 学部)	16	33,542	27,750	97,707	1,827	16,500	2,921	180,247
C (2~4 学部)	26	30,757	26,276	62,680	2,678	12,727	1,510	136,628
D (単科大学)	25	14,429	10,000	23,378	1,108	5,978	3,340	55,995

5 施設・設備

Ⅲ-5-1 面積・閲覧座席数・書架収容力（平成27年5月1日現在）

①面積

単位：m²

	サービススペース					管理スペース				合計
	閲覧	視聴覚	情報端末	その他	計	書庫	事務	その他	計	
本館	750	104	25	1,167	2,046	1,059	411	2,596	4,066	6,112
分館	495	56	36	203	790	583	186	210	979	1,769
合計	1,245	160	61	1,370	2,836	1,642	597	2,806	5,045	7,881

②閲覧座席数

単位：席

	1階閲覧室	1階自習室	2階閲覧室	3階閲覧室	合計
本館	124	76	154	250	604
分館	66	—	102	—	168
合計	200	87	256	226	769

③書架収容力

	棚板延長(m ²)	収容可能冊数(冊)	書架配架冊数(冊)	収蔵率(%)
本館	16,480	457,778	431,249	94
分館	3,889	108,028	103,706	96
合計	20,369	565,806	533,118	95

【参考】面積・閲覧座席数（平成26年度学術情報基盤実態調査）

国立大学	大学数	総床面積(m ²)	1大学床面積(m ²)	閲覧座席数(席)	1大学座席数(席)
A (8学部以上)	19	526,576	27,715	37,187	1,957
B ((5~7学部)	16	146,261	9,141	13,231	827
C (2~4学部)	26	188,112	7,235	15,579	599
D (単科大学)	25	102,773	4,111	8,326	333

【参考】書架収容力（平成26年度学術情報基盤実態調査）

国立大学	大学数	棚板延長(m)	1大学棚板延長(m)	収容可能冊数(冊)	1大学当収納可能冊数(冊)
A (8学部以上)	19	2,044,625	10,7612	56,795,137	2,989,218
B ((5~7学部)	16	477,579	29,849	13,266,087	829,130
C (2~4学部)	26	620,425	23,863	17,234,024	662,847
D (単科大学)	25	371,675	14,867	10,324,306	412,972

Ⅲ-5-2 図書館利用者用端末台数（平成 27 年 5 月 1 日現在）

単位：台

	据置き	貸出し	計
本館	75	4	79
医学分館	52	2	54
計	124	6	130

【参考】図書館利用者用端末台数（『平成 26 年度学術情報基盤実態調査結果報告』）

国立大学	大学数	据置き		貸出し		合計	
		台数(台)	1 大学平均(台)	台数(台)	1 大学平均(台)	台数(台)	1 大学平均(台)
A (8 学部以上)	19	3,334	175	381	20	3,715	196
B (5~7 学部)	16	1,134	71	209	13	1,343	84
C (2~4 学部)	26	1,833	71	368	14	2,201	85
D (単科大学)	25	667	27	183	7	850	34

Ⅲ-5-3 アクティブ・ラーニング・スペース（平成 27 年 5 月 1 日現在）

	面積(m ²)	運営体制(人)			
		職員(図書館)	職員(図書館以外)	教員	学生スタッフ
本館	100	2	0	0	0
医学分館	36	2	0	0	0
計	136	4	0	0	0

【参考】アクティブ・ラーニング・スペースについて（『平成 26 年度学術情報基盤実態調査結果報告』）

国立大学	設置館数(館)	設置率(%)	面積(m ²)		運営体制(人)			
			合計	1 館平均	職員(図書館)	職員(図書館以外)	教員	学生スタッフ
A (8 学部以上)	35	20.0	17,317	495	200	12	12	182
B (5~7 学部)	18	47.4	7,595	422	71	0	11	25
C (2~4 学部)	26	55.3	99,568	3,830	121	8	15	110
D (単科大学)	15	50.0	5,549	222	51	0	0	7

Ⅲ-5-4 各室使用状況（本館）

年度	グループ学習室（回）	閲覧個室（人）	マルチメディアルーム （人）	リスニングルーム （人）
21	799	136	230	（注）
22	1,072	193	320	（注）
23	1,420	289	501	（注）
24	1,951	334	504	（注）
25	2,214	613	416	（注）
26	2,112	611	16(注)	（注）

（注） リスニングルームは平成 21 年度よりグループ学習室 4 に改修

マルチメディアルームとしての部屋の利用は平成 26 年 6 月まで、10 月からグループ学習室 5 に改修

Ⅲ-5-5 会議室利用状況（本館）

年度	回数（回）	時間（時 間）
21	114	576
22	112	534
23	126	510
24	96	387
25	129	668
26	138	630